法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

和仏法律学校講義録

金井，延 / 矢作，榮藏 / 掛下，重次郎 / 粟津，清亮

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
2
(号 / Number)
号外の1
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
54
(発行年 / Year)
1901-02-10

明治三十三年
第二部号外
（自第一号
至第十五号）

完

冊数十五冊

私佛法律學校講義錄

第貳部

商法保險（完）（自一五三至一七六）法學士栗津清亮
表紙及ヒ目次六頁

商法海商（自四九至六八）法律學士掛下重次郎

經濟學總論（完）（自一六七至一九二）法學博士金井延
表紙及ヒ目次四頁

經濟學各論（自一〇五至一二四）法學士矢作榮藏

號外之壹

090
1900
2-2-1

モヨ此場合ニ八箇月ノ危險ハ既ニ經過シ去リタルカ故ニ保險料ノ十二分ノ八ハ利益ノ計算ニ組入ルルヲ至當ナリトスルモ未タ經過セサル四箇月ニ對スル分ハ翌年ノ支拂ニ當テンカ爲メニ繰越金トシテ積立テサルヘカラス然ラサレハ會社ノ生存ヲ危ウスルコトアレハナリ此繰越保險料ヲ未經過保險料ト曰フ

責任準備金ノ一種ナリ

保險責任金トハ被保險者カ契約ノ便宜上數年後ニ對スル保險料ヲ前納スル場合ニ發生スルモノニシテ之カ詳細ハ曩ニ保險ノ要件ヲ說クニ當リテ述ヘタル所ナリ此保險準備金ハ主トシテ生命保險ノ如キ長期ニ亘ル契約ニ存在スルモノニシテ各國ノ法律ニ規定セラルル所ナリ英國生命保險會社法ニハ被保險者死亡、滿期等ニ際シテ會社カ支拂フヘキ保險金ノ現價ヨリ將來會社ニ受取ルヘキ保險料ノ現價ヲ差引キ殘餘ヲ保險責任金トスヘシト明定シ墺太利那威保險會社法ニモ精細ニ之ニ類スル規定ヲ設ケタリ

(丙) 利率準備金

長期ノ契約ヲ爲ス所ノ保險會社例ヘハ生命保險會社ノ如キハ前述ノ如ク後年

分ノ保險料ヲ前取スルコト多シ而シテ此前取保險料ニハ相當ノ利子ヲ附シテ保管スヘキモノニシテ此利子ノ割合ヲ豫定利率ト稱スルコト最ニ説明セルカ如シ而シテ社會ノ金利ノ高低定マラス殊ニ文明ノ進歩ト共ニ低下スルノ傾向アルモノナルカ故ニ現今ハ豫定利率以外ノ收利ヲ爲シテ得ル所アリトスルモ後ニハ會社カ豫定ノ利率ヲ得ルコト能ハスシテ常ニ損失ヲ招カサルヘカラサルヤヲ保スヘカラス故ニ其危險ニ備フル爲メノ準備金ヲ設ケ高利ノ時代ニ得タル餘分ノ收入ヲ以テ低利ノ時代ニ被ルコトアルヘキ損害ヲ塡補スルノ用意ヲ必要トス但シ之ヲ强制スル所ノ法律ハ未タ各國ニ於テ其例ヲ見サルモノトス

第二　保險準備金ノ運用方法ヲ制限スルコト

保險準備金ハ前述ノ如ク會社ノ生存ニ影響ヲ有スルモノニシテ中ニハ被保險者ノ財產ヲ一時管理スルカ如キ性質ノモノスラアリ特ニ準備金ト稱スル上ハ必ス急ニ應シテ其效用ヲ全クセサルヘカラス然ルニ營業者ノ如キ殖利ニ汲汲タル者ニ至リテハ準備金ヲ準備金トシテ眞ニ設備スル者稀ニシテ或ハ之ヲ以テ他ノ事業ヲ企テ或ハ危險ナル高利貸ヲ爲シ若クハ固定資本ニ變セシメ或ハ如キ方法ヲ以テ格外ノ利益ヲ占メント欲ス故ニ啻ニ一朝準備金ノ支出ヲ要スル如キ場合ニ遭遇シテ敏速ニ之ニ應スル能ハサルノミナラス運轉ニ失敗シテ損害ヲ衆人ニ被ラシムルニ至ルコトアリ故ニ準備金ノ保管方法ハ最モ嚴重ニ制限セサルヘカラサルナリ獨逸ニ於テハ國債證券ニ換フヘシト規定シ墺太利ニ在リテハ國家カ確實ナリト認メル類ノ方法ヲ列擧シテ之ニ據ラシメントセリ國債證券地方債證券又ハ確實ナル會社ノ株券又ハ債券ノ買入之ヲ抵當トスル貸付確實ナル銀行ヘノ預入保險證券ノ抵當貸又ハ頗ル確實ナル方法ニ據レル不動產抵當貸等ニ限ルト規定セハ可ナラン

第三　業務公示ノコト

保險事業ハ概シテ錯綜セル計算ニ據ルカ故ニ動モスレハ營業者カ之ヲ利用シテ私曲ヲ行フコトナシト謂フヘカラス加之元來信用ヲ揭ケテ行フ所ノ事業ナルカ故ニ其危害廣ク多數ノ保險契約者ニ及フカ故ニ常ニ其業務ヲ公示セシメテ其弊害ヲ防遏セサルヘカラス之ニ付テハ第一國家ニ對シ第二社會ニ對シ第

三、保險契約者ニ對シ詳細ナル事業ノ報告ヲ爲サシメナルベカラス即チ監督官廳ニ對シテ毎年度ノ事業報告書貸借對照表財產目錄損害計算書ヲ呈出セシメ之カ摘要ヲ新聞紙上ニ公告シ又保險契約者ノ請求ニ應シテ之ヲ展閲セシメナルヘカラス加之何時ニテモ此等ノ書類ヲ監督官廳ヘ差出シ且ツ保險契約者ノ質問ニ應スルコトヲ得サルヘカラサラシムルノ必要アルモノトス英國ニテハ生命保險會社法ニ於テ報告書ノ精細ナル雛形ヲ示シ之ニ從ヒテ毎年度ノ計算ヲ示シ且ツ毎十年又ハ毎五年ニ一回數理主任ノ作成シタル報告書ヲ公示セシムルコトヲ規定セリ北米合衆國、加奈太、普漏西、墺太利等ニ在リテモ報告ノ詳細ナル例式ヲ掲ケテ之ニ遵據セシメ此義務ヲ怠ル者ニ對シテハ輕カラサル制裁ヲ被ラシムルコトアリ

第四　會社ノ財政檢査ノコト

國家ハ曾ニ法律ヲ以テ一定ノ條件ヲ强制スルニ止マラス保險會社カ果シテ之ヲ遵守セルヤ否ヤヲ實際ニ付テ吟味スルノ必要アルコト無論ナリ之ニ付テハ裁判所カ保險契約者ノ申立ニ因リ又ハ自己ノ申立ニ因リテ檢査ヲ行フコトト

監督ノ行政官廳カ之ヲ行フコトトアリ北米合衆國ニ於テハ何人ノ請求ニ因リテモ檢査ヲ行ヒ不正ヲ發見スルトキハ罰金ヲ科シ其一部ヲ告發者ニ付與スルノ規定スラアリ此ノ如キ規定ハ却テ弊害ヲ伴フノ虞アリト雖モ當該官廳ヲ檢査ヲ行フカ如キ規定ハ勿論必要ニシテ各國寛嚴ノ差異コソアレ殆ト之ナキ所ナシ

第五　不安全ナル業務ニ對スル制裁

一年以内ノ短期契約ヲ取結フ所ノ種類ノ保險會社ハ毎年損益ノ狀況ニ由リテ明カニ會社ノ盛衰ヲ見ルコトヲ得且ツ不慮ニ巨額ナル保險金ノ支出ニ遭遇シテ支拂ヲ停止セサルヘカラサル窮狀ヲ現ハスコト多シト雖モ契約ノ長期ニ亘ル會社例ヘハ生命病傷保險等ノ會社ニ在リテハ其命脈比較的ニ長クシテ病弊治スヘカラス早晩破產セサルヘカラサル地位ニ在リナカラ尙ホ外觀健全ヲ裝ヒフツ數年月ヲ經過シ得ルコト頗ル多シ而モ社會一般ノ人人ハ之ヲ認ムルコト難キカ故ニ監督官廳ハ常ニ之ニ注意シ一旦其狀態カ將來ノ奇禍ヲ招クヘシト認知セラレタルトキハ或ハ新契約ノ停止ヲ命シテ將來被保險者タラントスル者

テ防キ或ハ業務全體ヲ停止シテ整理ヲ行ハシメ或ハ業務擔當者ヲ不正ヲ出ヲタル場合ニハ之カ解任ヲ命シ或ハ遂ニ救濟スヘカラサルヲ認ムル場合ニハ會社ノ解散ヲ命シ災ヲ初歩ニ止メシメサルヘカラサルナリ之ニ類似セル規定ハ保險監督官廳ヲ設置セル總テノ國ニ存在スル所ノモノニシテ英國ノ如キハ裁判所此權ヲ有シ會社カ信用ニ堪ヘサルコト明カナル場合ニハ未タ支拂ヲ停止セストモ破產ノ宣告ヲ爲スコトヲ得トセリ我商法ニモ此規定アリ

第六節　保險會社解散ニ關スル規定

第一　任意解散ニ官許ヲ要スルコト

保險會社カ公安ヲ害シ又ハ信用ニ堪ヘサルカ爲メニ國家カ之ニ解散ヲ命スル場合ヲ除キ會社カ任意ニ解散セント欲スル時ハ官許ニ依リテセサルヘカラナルナリ是レ會社ノ設立ニ官許ヲ要スルノ規定ヨリ當然來ルヘキモノニシテ會社ノ解散ヲ來ス所ノ原因ハ廢業ト合併若クハ業務移轉ノ二アルカ故ニ之ヲ別チテ說明スヘシ

(甲)　廢業

保險會社カ其資本家ノ任意ヲ以テ存廢セラルヘカラサルコトハ既ニ說明シタル如ク之カ被保險者ノ利益ノ爲メニ存シ且ツ其存立時期ヲ永久ニセサルヘカラサル所業ノ本質ニ基キタル道理ニ由レリ故ニ會社廢業セント欲スルトキハ先ツ保險契約者ノ承諾ヲ經テ之ニ滿足ヲ與ヘ其次第ヲ官ニ於テ認定シタルトキ之ヲ許可スルコトトスヘキナリ加奈太ノ法律ニ於テ會社カ廢業セント欲スルトキハ之ヲ保險監督廳ニ上申シ保險契約者ニ對シテハ未經過保險料若クハ契約現價ヲ返戻シテ解約スヘシト規定セルカ如キ被保險者ノ利益ヲ無視シタルモノニシテ甚タ適當ナラサルナリ

(乙)　合併若クハ業務移轉

保險會社ノ廢業カ正當ノ理由ニ基クト雖モ實際多クノ契約者ノ間ニ存在スル所ノ權利義務ノ容積ヲ比較シテ清算スルコトノ困難ナルコトト成ルヘク保險契約ヲ繼續シテ被保險者ノ利益ヲ保存センカ爲メニ他ノ同種ノ會社ト合併シ若クハ其業務ヲ讓渡シテ無事ニ解散スルノ方法ヲ採ルヲ以テ最モ普通ニシテ

適當ナル處置ナリトス然レトモ此場合ニハ雙方ノ保險契約者ニ利害ノ關係ヲ及ホスモノナルカ故ニ先ツ其可否ヲ各自ノ保險契約者ニ問ヒ其大多數例ヘハ十分ノ九ト云フカ如キ承諾ヲ經サルヘカラス其承諾ヲ得サル時ハ合併移轉ヲ行フコトヲ得ス其承諾ヲ得タルトキハ殘餘ノ不承諾者ニハ解約價格ヲ返還シテ契約ヲ解除シ而シテ之ヲ證明シテ監督官廳ノ許可ヲ受ケシムルヲ以テ最モ適當ナル方法ナリトス英國ノ保險條例ハ最モ善ク之ニ類似シ唯行政官廳ニ申請スルト裁判所ニ申請スルノ差アルノミ他ノ保險會社法ノ規定モ亦大同小異ナリトス

第二　破產ニ官ノ監視ヲ要スルコト

保險會社ハ破產ニ因リテ解散スルコトナシト謂フヘカラス元來保險事業ハ統計ト數理トニ基キ構成セラレタルモノナルカ故ニ嚴重ニ保險學理ニ依遵シテ之ヲ實行スルトキハ決シテ破產スヘキ性質ノモノニ非スト雖モ之カ應用ノ當ヲ失スレハ終ニ義務ヲ盡スコト能ハサルノ狀況ニ陷リテ破產ノ非運ヲ招クコトナシト謂フヘカラス而シテ此場合ニ於ケル各保險契約者ニ對スル清算ノ方法ハ頗ル難澁ニシテ學理上未タ其適當ナル方法ノ發見セラルルニ至ラサルコトアリ例ヘハ生命保險會社ニ於テ其破產財團ヲ各保險契約者ニ割當テントスルモ各保險契約者ノ權利ノ容積カ決シテ適當ニ判知セラルヘキモノニ非ス蓋者ハ多クノ保險金ヲ契約セリト雖モ或者ハ之ヨリ小額ナル保險金ヲ契約シナカラ已ニ多額ノ保險料ヲ拂込ミテ多額ノ責任積立金ヲ請求スルノ權アリ而モ又或者ハ最モ少キ保險料ヲ拂込ミタルニ過キサルモ生命旦夕ニ迫レルカ故ニ保險金ニ最モ近キ請求權ヲ有セルアリ此ノ如クニシテ到底各自ノ權利ヲ測定スルコトヲ得サルカ故ニ財團ノ分配方法定ニ至難ナリ故ニ生命保險會社ハ通常破產ヲ爲サスシテ他ノ會社ト合併スルノ例頗ル多シ火災海上等ノ短期ナル保險ニ在リテハ生命保險ノ如キ困難ナシト雖モ適當ナル破產ノ手續ヲ爲ササルカ爲メニ多數ノ被保險者ニ不利ヲ來スノ恐甚タ多シ故ニ保險會社カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ監督官廳ハ之ヲ監視シテ能フ丈完全ニ其手續ヲ完了セシメサルヘカラサルノ必要アリトス英國ノ實例ニ依レハ生命保險會社ハ破產ヲ爲スコトヲ得ストノ慣習法ニ依リ合併ニ終局スルヲ通常トシ他種ノ會社ニ

在リテハ其破產ニ付テハ別ニ行政官廳ノ監視ヲ受クスト雖モ最近墺太利ノ立法ノ如キハ詳細ナル規定ヲ設ケタリ

以上六節ヲ以テ保險會社法ノ最モ重要ナル規定ヲ說明セリ各國文化進步ノ程度ト保險事業發達ノ狀況ニ從ヒテ尙ホ多クノ必要ナル規定アリト雖モ茲ニハ省略セリ

以上保險法ノ講義ヲ終了シタルヲ以テ是ヨリ保險業法ニ付キ聊カ說明スル所アラントス

附錄　保險業法論

我保險業法ハ全編百十五箇條ヨリ成リ第一章ニ總則トシテ保險事業ノ設立ニ關スル規定其監督所屬及ヒ監督官廳ノ權限ヲ定メ第二章ニ保險株式會社ノ特殊ナル條項ヲ規定シ第三章ニ相互保險會社ノ設立、社員ノ權利義務、會社ノ機關、會社ノ計算、定款ノ變更、解散及ヒ清算ノ條項ヲ商法會社ノ規定ニ於ケル體裁ニ準シテ規定シ第四章ニ保險會社ニ最モ重要ナル計算ノコトヲ特ニ定メ第五章

ニ罰則ヲ置キ終ニ附則トシテ施行ニ關スル規定及ヒ從來ノ保險會社ニ對スル適用ヲ揭ケタリ其模範ヲ獨逸草案、墺太利保險條例、諾威保險條例等ニ採リタルカ如ク且ツ我國ノ實況ヲ參酌シテ比較的ニ簡單ニ比較的ニ寬大ナル監督法ト謂ツテ可ナリ而シテ相互保險會社ナルモノヲ認メテ多クノ條項ヲ之ニ費シタルハ立法者カ保險ノ本則ハ相互保險ニ在リ相互保險ハ人民ノ利益ノ爲メニ奬勵スヘキ必要アルモノナリトノ考案ヨリ來レリトノ說アレトモ少シク信スヘカラサルカ如シ何トナレハ會社ノ組織ハ株式ニモアレ亦相互ニモアレ保險事業其モノハ元來相互的ノ行爲ナルカ故ニ其目的ヲ全ウスルニ付テ必スシモ相互保險會社ヲ奬勵スヘキ理由ナシ殊ニ我保險業法ニ規定セラルル所ノ相互保險會社ハ其設立ニ付テモ運轉ニ付テモ株式會社ト異ナル所ナキ規定ノ檢束ヲ受ケ且ツ相互會社ニシテ社員ニ非サル者ト保險契約ヲ結フコトヲ認メ居レリ此ノ如キモノハ其實質ニ於テモ形式ニ於テモ株式保險會社ト甚シキ相違アルコトナシ是ヲ以テ觀レハ奬勵スト云フ意味ニ非スシテ社會ノ狀態ニ迫ラレテ止ムヲ得ス此規定ヲ設ケタルニ非スヤト思ハルルナリ

次ニ其規定ノ解釋ニ困難ナルモノ若クハ疑ニ講シタル保險會社法中ニ見ナルモノヲ掲ケテ説明セント欲ス

第一　相互保險會社トハ何ソヤ曰相互保險會社ノ種類

相互保險會社トハ被保險者カ同時ニ保險者タル場合ヲ指スハ普通ノ解釋ナレトモ實際數萬ノ被保險者カ悉ク皆會社ノ社員ト爲リテ會社ヲ構成シ之ヲ運轉スルニ付テ權利義務ヲ有スルコトハ啻ニ不便ナルノミナラス到底實行シ難シト謂フヘシ是ヲ以テ實際ニ於テハ被保險者ノ一團體ヲ代表スル所ノ機關ヲ定メ或ハ又所謂社員ナルモノノ數ヲ限定シ代表者ノ會議若クハ社員ノ會議ナルモノカ恰モ株式會社ニ於ケル株主會議ノ如ク比較的少數者ノ會合ト爲リテ更ニ之カ業務執行者ヲ選任シ恰モ株式會社ニ於ケル取締役若クハ監査役ノ如キ形體ヲ形造ルニ至レリ是ニ於テカ相互保險會社ニ二種ノ區別ヲ生シ社員ノミノ間ニ保險契約ヲ爲スモノト社員ニ非サル者トモ亦保險契約ヲ爲スモノトノ二ヲ現出スルニ至レリ保險業法案第三條ニ於テ此區別ヲ認メタリ但シ後者ハ特ニ其免許ヲ受クルコトヲ要スト爲シタルハ非營利的性質ノ保險事業カ營利的ノ性質ヲ帶ヒ來レルノ點ニ於テ特ニ之ヲ監督スルノ必要上設ケタルモノト思惟セラル而シテ其第二項ニ於テ主務官廳カ何時ニテモ其免許ヲ取消スコトヲ得ト爲シタルハ之カ弊害ヲ認メタル場合ハ社員ニ非サル者トノ契約ヲ將來ニ對シテ停止スルノ意ナルヘシト雖モ弊害カ起ランカト恐ルルカ如キコトハ成ルヘク許可セサルヲ可ナリトス而シテ今ヤ確定法文ニハ此等ノ正條ヲ見サルニ至レリ

第二　株式會社ノ資本金

第十六條ニ會社ノ資本ハ十万圓ヲ下ルヲ得ストアリ然レトモ其拂込金額ニ付テハ制限スル所ナシ故ニ商法ノ規定ニ從ヒテ四分ノ一ノ拂込即チ二萬五千圓ヲ以テ業務ニ著手スルコトヲ得ルコトトセリ其金額カ適當ナリヤ否ヤヲ考フルニ保險ノ種類中最モ資本金ヲ要セサル生命保險會社ト雖モ今日ノ會社ノ事情ニ照ラシテ此ノ如キ少額ナル資本ヲ以テ永久繁榮ノ基礎ヲ作ルニ足ルヘキヤハ疑問ニ屬ス保險事業ハ多クノ被保人ヲ集合セシムルヲ以テ最モ便利ニシテ且ツ利益トスルカ故ニ微弱ナル群小會社ヲ設立ハ社會ノ爲メニ慶スヘカ

ラサルコトナリ此場合ニ此ノ如キ小資本ヲ以テ營ムコトヲ許ストセハ或ハ泡沫會社ノ發生ヲ促シテ而モ彼等ヲ中道ニ挫折セシムルノ憂ナシトセンヤ故ニ生命保險ニ於テモ拂込高ノ制限ヲ設ケテ少クトモ拂込金額十萬圓ヲ下ルコトヲ得スト規定スルヲ當今ノ時勢ニ適當ナリト思惟ス況ヤ規模廣大ニシテ損害ノ不同甚シキ火災海上等ノ保險ニ在リテハ拂込金十萬圓ヲ以テスルモ尚ホ薄弱タルノ感ナキ能ハス其適當ナル金額ニ至リテハ確ニ明言スルコトヲ得スト雖モ保險ノ種類ニ隨テ差異ヲ設クル必要アリト信ス

第三　會社ノ合併

會社ノ合併ニ付テハ保險契約者ノ承諾ヲ受タヘキハ勿論ナリト雖モ保險會社ノ合併ハ事ロ其基礎ヲ堅クスル場合ニノミ起ルコト多キカ故ニ必スシモ被保險者全員ノ承諾ヲ得ストモ之ヲ遂行シテ可ナルノ理由アリ然レトモ十分ノ一(保險金額ノ)以上ノ異議者アルトキハ合併ヲ遂行スルヲ得スト規定セタリ是レ計算上十分ノ一以上ノ異議者ヲ滿足セシムルコトハ甚タ容易ナラスト認メタルノ趣旨ニシテ又一方ヨリ言ヘハ合併ノ爲メニ幾分カ損害ヲ受クヘキ傾アル會社ノ保險者ヲ保護スルノ途ナリ(第二二條)

第四　相互會社ノ成立幷其基金

株式會社ノ成立ニ付テハ商法ニ規定アリテ七人以上ノ株主ヲ得タル場合ニ成立ストセリ然レトモ相互會社ハ其性質上多數ノ利害關係者ヲ集合セシムル必要アリ是ニ於テカ保險業法ニハ社員カ百人以上ニ達セサルトキハ會社ヲ設立スルヲ得ス隨テ成立シタル會社ノ社員ノ數カ百人以下ニ減少シタル場合ニハ會社ハ當然解散セサルヘカラスト規定セリ諸外國ニ於テモ是ト大同小異ノ規定アリテ社員ノ數ノ制限ニ加フルニ保險金額ノ數ニ制限ヲ置ク國アリ

株式會社ニ資本金ヲ要スルコトハ敢テ其理由ヲ問フノ必要ナシト雖モ相互保險會社ニ資本金ヲ要スルト云フハ何故ソヤ相互會社ノ社員ハ保險料以外ノ責任ヲ有シ其支拂ヒタル保險料ヲ以テ會社ノ經濟ヲ維持スルコト能ハサル場合ニハ不足額ヲ追徵セラルルモノナルカ故ニ其資本金ヲ豫備スルノ必要ナキカ如シ又會社ノ責任ヲ社員自身カ分擔スル所ノモノナレハ自己カ自己ノ權利ニ對シテ擔保ヲ要求スルノ必要モナシ故ニ相互保險會社ニハ資本金ヲ設備スル

ノ必要ナシトノ論モ必スシモ不當ナラサルカ如シ然リト雖モ他ノ方面ヨリ考フレハ社員ノ數カ未タ十分多數ニ達セス保險料ノ蓄積ヲ超エテ保險金ヲ支拂ハサルヘカラサル場合若クハ多クノ社員ヲ集メテ事業ヲ開設スルニ付テハ少カラサル設立費用ヲ要スル場合又ハ相互會社ト同シク新ニ社員ヲ加入セシムルニ付テハ多額ノ運動費ヲ要スル場合等ナシトセス此時ニ當リ常ニ社員ヨリ追徵金ヲ爲スコトハ其負擔ニ堪ヘサルコト明カナリ相互會社ニ於ケル追徵金ナルモノハ實際ニ於テ多ク行ハルルコトヲ避ケサルヘカラス被保險者カ便益トスル所ハ一定ノ期間ニ一定ノ保險料ヲ醵出シ得ルニ在ルカ故ニ歴年其以上ノ醵出ヲ要求セラルルトキハ保險ノ便益ヲ失ヒ却テ嫌厭ヲ來スノ基ナリ故ニ追徵金ハ寧ロ安全弊ト考ヘテ常ニ實行セラルルモノトセサルヲ適當ナリトス以上ノ理由ニ由リテ相互會社ト雖モ基金ヲ必要ト認メ第二十八條ニ相互會社ノ基金ハ十萬圓ヲ下ルヲ得スト規定セリ

(イ) 基金ノ供給者 相互會社ノ基金ハ何人カ之ヲ供給スヘキヤト云フニ發起人若クハ社員カ出資スルヲ最モ普通ノ道理ナリトス然リト雖モ通常相互會社ノ社員ト爲リテ保險ヲ行ハントスル者ノ如キハ財産ノ豐富ナル者少キカ如シ經令豐富ナル者アリトスルモ十萬圓ノ基金ヲ出資スルニ付テハ比較的多數ノ富裕ナル社員ヲ糾合セサルヘカラサルカ故ニ發起人若クハ社員ニ於テ之ヲ供給スルハ事實上困難ナリ故ニ保險業法ハ相互會社ヲシテ他人ヨリ基金ヲ借入ルルコトヲ許セリ而シテ其醵出者ノ權利ハ相當ノ利子ヲ收納スルノ外何等ノ權利ヲモ有セストスルヲ適當ナリト思惟スレトモ保險業法ハ其點ニ付テハ詳細ニ規定セス唯第二十六條ニ於テ定款中ニ基金ノ醵出者カ有スヘキ權利ヲ定メシメ主務官廳カ該定款ニ欲リテ認許ヲ與フルニ際シ過等ナル權利ヲ授與スルコトヲ禁スルノ意アルカ如シ

(ロ) 基金ノ償却 前述ノ如ク或事情ニ因リテ基金ヲ設備セシムト雖モ此等ノ事情カ取去ラレテ會社ノ安全ナル進行ヲ得ルニ至リテハ相互會社ノ本質上基金ヲ取去ルコトヲ妨ケス又一方ニ於テハ無用ナル基金ヲ償入レテ常ニ利子ヲ拂フコトハ會社ノ利益即チ社員ノ利益ニ影響スルコト勿論ナリトスルカ故ニ保險業法ニ於テモ基金ノ償却ヲ認ヒ會社ハ利益ヲ見ルニ從ヒ之ヲ償ク基金ヲ置

却シ而シテ一方ニハ基金ノ價却高ト同額ノ準備金ヲ積立テシメ例ヘハ十萬圓ノ基金カ會社ノ利益ニ因リテ價却ヲ盡サレタルトキニハ會社モ十萬圓ノ準備金ヲ備ヘ得テ其安全ノ缺クルコトナキヲ得ルカ如シ(第六〇條)

第五　剩餘金ノ分配

相互會社ニ於ケル剩餘金トハ株式會社ニ於ケル利益ト同シク其行フ所ノ保險事業ヨリ生スル純益ヲ指スモノナリ而シテ株式會社ノ利益ハ之ヲ株主ニ分配スルカ如ク相互會社ノ剩餘金ハ社員ニ分配スルヲ原則トシ保險業法第六十一條ニ之ニ關スル規定アリ今保險會社ノ利益金ハ如何ナル源泉ヨリ來ルヤト云フニ各社員ヨリ收納シタル保險料ヨリ來ルコト勿論ナリト雖モ其如何ナル經過ニ因リテ剩餘金ヲ生スルヤハ茲ニ一言セサルヘカラス

一　死亡率ノ差異ヨリ生スルモノ

死亡者ニ對シテ拂渡スヘキ保險金ハ保險ノ數理上豫メ計算セラレテ各社員ヨリ保險料トシテ徴收セラルル所ナリ然リト雖モ健全ナル社員ノ選擇及ヒ外界ノ事情ニ因リ豫定ノ支拂高ニ達セスシテ剩餘金ヲ生スルコトアリ

二　利率ノ差異ヨリ生スルモノ

會社カ社員ヨリ徴收スル保險料ニ對シテ支拂フヘキ利子ノ割合ハ安全ノ爲メ比較的低ク見積リアルコト屢述ヘタルカ如シ故ニ保險料ノ徴收方適當ニシテ其利用ノ方法宜キヲ得ハ餘計ナル利子ヲ會社ニ收納シ得ルコト難カラス此利益ハ亦剩餘金ノ源泉ナリ

三　營業費ノ節略ヨリ生スルモノ

會社カ其事業ノ目的ヲ遂スル爲メニ要スル費用ハ豫メ見積リテ保險料ニ割掛ケ各社員ヨリ徴收スル所タリ而シテ最モ節險ニ事業ヲ營ミ又非常ナル多數ノ社員ヲ集メ得タル聯ニハ此部分ニ剩餘ヲ生スルコトナシトセス

以上ノ三者ハ即チ剩餘金ヲ構成スルモノ[illegible]之ヲ各社員ニ分配スルニ付テ如何ナル方法ニ依ルヘキヤハ相互保險ニ伴フ所ノ一大問題ナリ株式會社ノ利益ヲ株主ニ配當スルニ付テハ株金高ヲ標準トスレハ足レリト雖モ剩餘金ヲ各社員ニ分配スルニ付テハ何ヲ標準トシテ可ナルヤ保險金額ヲ標準トスヘキヤト云フニ不當ナリ何トナレハ保險金額百圓ノモノニ對シテハ一圓ヲ配當シ千圓ノモノニ對シテハ十圓ヲ配當スルトスト云フカ如キ單純ナル標準ヲ採用セ

[illegible]一箇月前ニ入社シタ僅ニ十圓ノ保險料ヲ拂ヒ而シテ四年間ノ契約ヲ締結シタル者カ十年前ニ入社シタ數十圓ノ保險料ヲ拂ヒ會社ト深ク永キ關係ヲ立テタ而モ百圓ノ保險金額ヲ契約スル者ヲ超エテ十倍以利益配當ヲ得ルカ如キ不當ナル結果ヲ見ルニ至ルヘシ然ラハ既ニ拂込タル保險料ヲ標準トシテ剩餘金配當ヲ爲スヘキヤ又ハ各社員ノ有スル責任準備金ヲ標準トスヘキヤ此等ハ學者間ニ於テモ異說紛紛タリ結局相互保險ニ於タル剩餘金完全ナル方法ハ未タ發見サレス予ハ又到底其發見セラレサルヲ信セリ然リト雖モ不完ナカラニ其方法ヲ定ムルコトハ能ハサルニアラス既ニ拂込タル保險料ヲ標準トスルカ如キハ最モ容易ニ行ハルヘキ方法タリ而シテ此方法ハ定款ニ定メテ免許ノ一條件ト爲スヘキモノトス[illegible]

第六 設立費用及ヒ營業當初ノ費用ノコト[illegible]保險事業ハ他ノ多クノ事業ト趣ヲ異ニシ設立ノ際若クハ開業ノ當時ニ多額ノ費用ヲ要シ收支相償ハサルノ狀態ヲ現ハシテ而モ年數ノ經過ニ伴フテ漸漸損害ヲ回收シ利益ノ甚シキ增大ヲ見ル例ヤ[illegible]保險事業[illegible]構成スルモ[illegible]

タ諸種ノ學理的調査設計等ニ要スル費用ハ其積算[illegible]モ鐵道會社ニ關スル鐵道線路客車等ノ如ク有形ナラサルカ故ニ財產ナリト主張スルコト難シ又新契約費用ノ如キハ想像外ノ多額ニ上ルモノニシテ例ヘハ生命保險ニ於テ百圓ノ被保險者ヲ契約スルニ付テ二圓以上ノ費用ヲ要スルカ如キ狀態ナリ故ニ此等ノ費用ハ損失トシテ其事業年度中ニ償却スルコトハ頗ル困難ナリ又理論ヨリ言フモ設立費用ハ縱令無形ナリト雖モ財產ト看做スコトヲ得新契約費用モ縱令一時ハ損失ノ如ク見ユルトモ該契約ノ契約ト共ニ利益ヲ會社ニ持來ルモノナルカ故ニ又會社財產ノ一部ト看做スコトヲ得是ヲ以テ我保險業法ハ其第五十八條ニ於テ設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ハ十年ヲ超エサル期間內ニ於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ每年其一部ヲ償却スルコトヲ得ト規定セリ其意味ハ此等ノ費用ヲ假ニ會社ノ資產ト看做シテ計算ヲ許スカ如ク解釋セサレハ吾人ハ其缺損ヲ償ハ[illegible]ヲ法律人特別ナル規定ノ必要ヲ見ス十年ハ[illegible]カ二十年ニテモ三十年ニテモ隨意ニ之ヲ償却スルコトヲ得ト謂ハサルヘカラス[illegible]

第七　相互會社社員ノ責任及ヒ其退社

株式保險會社ノ保險契約者ハ會社ニ對シテ有スル金錢上ノ責任ハ唯契約ノ保險料ヲ支拂フニ止マリ其保險料モ彼カ契約ノ繼續ヲ好マサル場合ニ隨意ニ其支拂ヲ止ムルコトヲ得テ概シテ頗ル自由ナル地位ニ在リ然レトモ相互會社ノ社員即チ保險契約者ハ之ニ反シテ比較的ニ重キ責任ヲ有スル場合多シ

我保險業法ニハ社員ノ責任ノ種類ヲ三種ニ別チ一ヲ無限ノ責任ヲ負フ者トシ二ヲ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フ者三ヲ保險料ノ外ニ尚ホ一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フ者トセリ而シテ此等三種ノ社員ハ一會社ニ混合シテハ存在シ得ヘカラサルモノニシテ全員同種ノ社員タラサルヘカラス(第三七條)是レ其責任ノ限度異ナレハ受クヘキ利益ノ限度ヲ異ニセサルヘカラサルノ類ヲ招クヲ以テナリ然リ而シテ實際社員カ無限ノ責任ヲ負スカ如キハ容易ニ行ハレサル所ニシテ又保險料ヲ限度トスルハ相互保險ノ本質ニ多少背反シテ會社ノ存立ニ危害ヲ與フルノ恐アリトセス故ニ第三種ノ者即チ保險料及ヒ或程度ノ追徵ハヲ限度トシテ責任ヲ負ハシムル者ハ最モ適當ナリトシテ隨テ實際ノ應用

多キモノトス

株式會社ノ契約者ハ何時ニテモ解約スルコトヲ得レトモ相互會社ノ社員ハ其社員タル丈ケ會社ト密接ナル關係ト重キ責任ヲ有シ何時ニテモ退社スルコトヲ得スシテ事業年度ノ終ニ於テノミ退社スルコトヲ得トセリ是レ保險會社ノ總テノ計算ハ一箇年ヲ基礎トシ保險料ハ一箇年分ヲ分フヘカラス剩餘金分配ハ一箇年ノ終ニ於テスルカ如キ原則ニ據リ中途ノ退社ヲ許サヽルナリ加之退社ハ六箇月前ニ之ヲ豫告セサルヘカラス且ツ退社シタル後ト雖モ在社中ノ會社ノ債務ニ付テハ二年間責任ヲ負フトセリ是レ相互會社ノ社員ハ株式會社ノ株主ト同樣ノ地位ニ在ルモノナルカ故ニ同樣ノ責任ヲ規定シタルナリ

商法保險

終

和佛法律學校發行

法學士 粟津清亮講述

商法保險

和佛法律學校發行

商法保險目次

緒言……一
第一編　保險汎論……六
第一章　保險の原理……六
第一節　保險ハ委運ノ行爲ナリ……七
第二節　保險ハ損害ノ塡補ナリ……八
第三節　保險ハ損害ノ負擔ナリ……八
第二章　保險の組織……九
第三章　保險の要件……一二
第四章　保險の種類……一八
第二編　保險法論……二三
第一章　保險法の種類……二三
第三章　保險法源……二四

第三章　保險契約法……二四
第一節　保險契約ノ意義……三一
第二節　保險契約ノ性質……三六
第三節　保險契約ノ要素……四二
第一款　費保險料……四二
第二款　保險料……五一
第三款　危險……六七
第四款　保險期間……八〇
第四節　保險契約ノ關係者……八六
第一款　保險者……八六
第二款　被保險者……八七
第三款　保險契約者……九一
第四款　保險金受取人……九五
第五款　當事者ノ代理者……一〇四
第五節　保險契約ノ申込及ヒ締結……一〇七
第六節　保險契約ノ效力……一一八
第七節　保險契約ノ移轉……一二八
第八節　保險契約ノ消滅……一三一
第四章　保險會社法……一三六
第一節　保險事業ノ性質及ヒ其國家ニ對スル關係……一三六
第二節　保險會社法ノ意義……一四〇
第三節　保險會社法ノ必要ナル理由……一四一
第四節　保險會社設立ニ關スル規定……一四二
第五節　保險業務執行ニ關スル規定……一五〇
第六節　保險會社解散ニ關スル規定……一五八
附錄　保險業法論……一六二

商法保險目次終

渡スコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス舊商法第八四七條獨舊商法第四七〇條

共有持分ノ讓渡ニ付テハ民法ニ何等ノ規定ナキヲ以テ其持分ハ他ノ共有者ノ承諾ナク自由ニ讓渡スコトヲ得ヘキモノト解釋スヘキモノナレハ船舶ヲ共有スルニ當リ單ニ民法ノ共有ニ關スル規定ノミニ準據スヘキ場合ニ在リテハ船舶共有者ハ其規定ニ從ヒ自己ノ持分ヲ自由ニ他人ニ讓渡スコトヲ得ヘシ然レトモ船舶ノ共有者間ニハ船舶ノ使用ニ關シテ組合關係ノ存スルコトアルヘク此場合ニ於テ當事者ニ特別ノ約款ナキニ於テハ其關係ハ組合ノ關係ニ因リテ定マルヘキモノタルナリ而シテ船舶共有者間ニ組合ノ關係アル場合ニ於テ民法ノ組合ニ關スル規定民法第六七六條乃至第六七八條ヲ適用スルコトト爲ストキハ持分ハ自由ニ他人ニ讓渡スコトヲ得サルナリ若シ其讓渡ヲ他ノ組合員カ許諾スルトキハ其讓渡ニ因リ一ノ新ナル組合ヲ組成スルニ過キス然レトモ此原則ヲ船舶共有ノ場合ニモ適用スルコトト爲ストキハ是レ危險分擔ノ主義ニ反シ航海業ノ進歩ヲ妨害スルニ至ルヘキヲ以テ新商法ハ民法ノ組合ニ關シ

ル原則ニ對シ特別ノ規定ヲ設ケ船舶共有者間ニ組合關係存スルト雖モ之ニ拘ラス各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得スシテ自由ニ其持分ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ルモノト爲シタリ

船舶共有持分ノ讓渡ハ自由ナリトソ原則ニハ二箇ノ例外アリ即チ船舶管理人カ共有者ニシテ其持分ヲ讓渡サント欲スル場合及ヒ第五百五十五條ニ規定スル場合持分ノ讓渡ニ因リ船舶カ國籍ヲ喪失スヘキ場合是ナリ此第二ノ例外ハ後ニ叙述スヘケレハ今茲ニ第一ノ例外ノ場合ノミヲ說カン此場合ハ他ノ共有者カ船舶管理人ヲ選任セシハ其者カ共有者ナルカ爲メニシテ共有者ニ非サレハ之ヲ選任セサリシナラン等ノ事情存スヘシ然ルニ若シ管理人カ自由ニ其持分ヲ他人ニ讓渡ストキハ一方ニ於テハ共有者タル資格ヲ失ヒ船舶ノ運命ト密接ノ關係ナキニ至リ他方ニ於テハ管理人トシテ重大ノ權限ヲ有スルヲ以テ縱令惡事ヲ爲サヽルトモ他ノ共有者カ豫期セシ所ト多少齟齬セサルヲ得ス故ニ管理人タル共有者カ自由ニ其持分ヲ讓渡スコトヲ得ルモノト爲ストキハ他ノ共有者ノ利益ヲ害スルヲ以テ法律ハ之ヲ許サヽルモノト爲セリ依テ若シ管理人タル共有者カ其持分ヲ讓渡サント欲セハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得ルカ然ラサレハ先ツ其管理人タルコトヲ辭シ然ル後讓渡スヨリ外アラサルナリ

○船舶管理人―第五百五十二條　船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス（船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス）船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス（舊商法第八四一條、獨逸商法第四五九條、第四六〇條、第四六二條）

船舶ヲ二人以上ニテ共同シテ所有スル場合ハ稍株式會社ニ似其共有者ハ株主ニ類シ他ノ共有者ノ同意ヲ得ルコトナクシテ脫退スルコトヲ得ル等全ク物的結合ニシテ一モ人的關係ヲ重ンスル合名會社ヲ成スニ非サレハ曩ニモ說キタルカ如ク共有者相互ニ代理スルコトヲ許サス唯同一物件ニ係ル不可分的所有者タルニ過キス故ニ之カ代理ヲ爲ス者ヲ置クコトハ闕クヘカラサルナリ況ヤ各共有者ハ單ニ其持分ノ賣却ニ因リテ絕エス變更シ得ヘク且ツ其共有者各人ニ對シテ契約ヲ取結フハ不可成的ノコトタル多キニ於テヲヤ而シテ其管理人ハ船舶共有者各箇ノ代理人ニ非スシテ其總體ノ代理人タルナリ

船長ハ常ニ船舶ニ在リテ航海ニ關スル事務ヲ執レルカ故ニ船舶カ共有ナル場合ニ於テハ此者ヲ法律上船舶管理人ト爲スハ便宜ナルモノノ如シト雖モ船長ハ別ニ法定及ヒ契約上ノ重大ナル固有ノ職務アリテ此大任ニ當ルヲ得サルヲ以テ諸國ノ立法例ニ於テモ船長ノ外ニ船舶管理人ナル者ヲ設ケ其任ニ當ラシム而シテ船舶管理人ハ舊商法ニ於テハ其條文ニハ禁示ノ明文ヲ見サレトモ船舶共有者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得ストノ解釋ヲ爲ス者アレトモ新法ハ共有者中ノ一人ヲ擧ケテ之ニ任スルコトヲ得ヘキ旨ヲ明定セリ故ニ共有者以外ノ者ヲ管理者ニ選任スルモ共有者中ノ一人ヲ選任スルモ共有者ノ自由ナリト雖モ彼ヲ選任スル場合ト此ヲ選任スル場合トニ依リ法律ノ規定同一ナラサル所アリ而シテ船舶管理人ヲ選任スルモ亦一ノ船舶ノ利用ニ關スル事項ニ外ナラサレハ第五百四十六條ノ規定ニ從ヒ議決權ノ過半數ニ依リテ決定セラルヘキモノニシテ共有者中ノ者ヲ選任スル場合ハ共有者相互ニ信用アルヲ以テ右ノ規定ニ從ヒテ選任シ毫モ弊害アルヲ見スト雖モ法律ハ共有者以外ノ者ヲ選任スルトキハ共有者總員ノ同意アルコトヲ要スト規定セリ何トナレハ船舶管理人ノ權限ハ次條ニ示スカ如ク至テ廣大ナルモノナレハ此ノ如キ大任アル者ヲ選任スルニ普通ノ原則ニ從ヒテ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ選任スルコトト爲ストキハ或ハ一二人ニシテ議決權ノ過半數ヲ有スル場合アリテ專斷ニ陷ルノ弊ナキヲ保シ難キヲ以テ此場合ニ例外ヲ設ケタル所以ナリ

船舶管理人ハ支配人ト同シク其權限頗ル廣大ナリ而シテ第三十一條ニ於テ支配人ノ選任及ヒ代理權ノ消滅ハ登記ヲ要スト爲セルカ故ニ船舶管理人ニ付テモ亦其選任及ヒ代理權ノ消滅ノ登記ヲ爲スヘキコトト爲シテ第三項ノ規定ヲ設ケタリ

○船舶管理人ノ權限（第五百五十三條）船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

一　船舶ノ讓渡、委付若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト

二　船舶ヲ保險ニ付スルコト

三　航ニ航海ヲ爲スコト

四　船舶ノ大修繕ヲ爲スコト

五　借財ヲ爲スコト

船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス（獨商法第四六〇條）

既ニ前條ニ於テ法律ハ船舶カ二人以上ノ共有ナル場合ニ於テハ必ス船舶管理人ヲ選任スルコトヲ强要セルカ故ニ其法定權限ヲ規定セルハ恰モ支配人等ノ法定權限ヲ規定セルト一般ニシテ商業上ノ便利頗ル多カルヘシ例ヘハ船舶管理人ト或取引ヲ爲シタル者カ其行爲ハ船舶管理人ノ權限內ノモノト信シテ之ト取引ヲ爲シタルニ豈ニ圖ランヤ後ニ至リ其權限ナルコトヲ了知シ其取引ニ對シ船舶共有者ハ責任ヲ有セサルモノタルニ至リテハ船舶管理人ト取引ヲ爲ス者ハ安心シテ取引ヲ爲スコト能ハサルヘシ然レトモ船舶管理人ノ權限カ云云ナルコト法文ヲ以テ明カニ規定スルトキハ之ト取引ヲ爲ス者ハ安心シテ取引ヲ爲スニ至ルヘシ

船舶管理人ノ權限ハ各國ノ立法例同一ナラスト雖モ我商法ニ於テハ原則トシテ船舶ノ利用即チ共有ノ目的タル利用ニ付テハ之ニ全權ヲ與ヘ縱令船舶共有者カ之ニ制限ヲ加フルト雖モ其制限ハ善意ノ第三者ニ對シテ效力ナキコト猶ホ支配人ノ權限ニ於ケルカ如キモノト爲セリ而シテ船舶管理人ノ權限ハ船舶ノ利用ニ關スルモノニ限ル故ニ其目的ヲ外レタルモノハ船舶管理人ノ專斷ニテ之ヲ爲スコトヲ許サス又其目的カ船舶ノ利用ニ關スルモノト雖モ重大ナル事柄ハ制限シテ其專斷ヲ許ササルコトト爲セリ今左ニ法律カ船舶管理人ノ行爲ニ對シテ制限シタル所ヲ叙述セン

第一號ノ船舶ノ讓渡委付若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコトハ先ツ船舶ノ讓渡ハ船舶ノ共有ヨリ之ヲ言フトキハ其消滅原因トモ爲ル終局ノ處分ニシテ之カ利用ト謂フヲ得サルヘシ此ノ如キ重大ナル事ハ船舶管理人ノ專斷ヲ以テ爲サシムルコトヲ得ス其他委付第五四四條第六七一條若クハ賃貸ヲ爲スコト又ハ船舶ヲ抵當ト爲スコト等ハ總テ重大ナル事ニ屬スルヲ以テ船舶管理人ノ權限ニ屬セシメサルヲ

茲ニ注意スベキコトアリ即チ船舶ノ賃貸ノ意義是ナリ此意義ハ民法ニ所謂賃貸ト同意義ナレハ之ヲ本法ニ於テ後ニ說ク所ノ傭船契約ト混淆スヘカラス船舶ヲ賃貸シタルトキハ其所有者ハ其船體及ヒ屬具ヲ貸與スルニ過キスシテ船舶ノ使用ニ必要ナル準備例ヘハ船舶ノ艤裝海員ノ雇入等ハ總テ賃借人ニ於テ爲スモノニシテ其賃借人ハ船舶ノ利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ位置ニ立チ之ト同一ノ權利義務ヲ有スルナリ然ルニ蓋商法第八百八十七條乃至第八百九十八條ニ於テ規定セル船舶賃貸借契約ハ民法ニ所謂賃貸借契約ト其意義ヲ異ニシ新商法ニ規定セル所ノ傭船契約ニ該當スルモノニシテ船舶ノ全部若クハ一部ニ賃借人(傭船者)ノ荷物ヲ船積スルニ止マリ船舶ノ艤裝海員ノ雇入等航海ニ必要ナル準備ハ船舶所有者之ヲ行ヒ其契約ノ性質タルヤ全ク運送ト云フ仕事ノ結果ヲ以テ目的ト爲スカ故ニ民法ニ所謂賃貸借ニハ該當セサルナリ

第二號乃至第五號ノ事項モ總テ船舶所有者ニ重大ナル關係ヲ有スルカ故ニ之ヲ船舶管理人ノ權限ニ屬セシメサルナリ

以上法律ニ依リテ制限セラレタル事項ヲ除ク外船舶ノ利用ニ關スル行爲ニ付テハ船舶管理人ノ權限ニ屬シ裁判上タルト裁判外タルトヲ問ハス船舶共有者ヲ代表スルモノトス故ニ船舶管理人ハ艤裝其他海員ノ雇入船舶ノ艤裝其保存及ヒ給養其他航海ニ必要ナル事運送契約收入金ノ領收金錢ノ計算出納及ヒ各共有者ニ對シ出金ヲ催告シ及ヒ之ヲ領收スル事等ハ總テ其權內ニ於テ專斷ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ヘシ然レトモ是レ船舶管理人カ善意ノ第三者ニ對シテ其權限トシテ爲スヲ得ヘキモノナレハ第三者ヲ船舶管理人ト此等ノ行爲ニ關シテ取引ヲ爲シタルトキハ船舶共有者ハ自ラ之ヲ爲シタルト同シク總テ之カ責任ヲ負フヘシト雖モ是レ船舶共有者ト第三者トノ間ノ關係ヲ規定シタルニ止マリ船舶共有者ト船舶管理人トノ間ニ在リテハ其代理權ニ制限ヲ加ヘタルコトヲ得ヘキハ論ヲ俟タサルナリ

㊀船舶管理人ノ義務(第五百五十四條)船舶管理人ハ悉ク帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載シ且ツ要ニ應シ船舶管理人ハ每航海ノ終ニ於テ運賃ナク其航海ニ關シ收支計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコ

トヲ要ス(獨商法第四六五條第四六六條)

船舶管理人ハ法律上右ニ說キタルカ如ク船舶ノ利用ニ關スル事項ニ付テハ廣大ナル權限ヲ有シテ之ヲ管理スルモノナレハ以上ノ規定ノ如キ義務ヲ負フハ當然ナリ

○船舶共有持分ノ買取リ又ハ競賣ノ强制——第五百五十五條　船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得(社員ノ持分ノ移轉ニ因リ會社ノ所有ニ屬スル船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ合名會社ニ在テハ他ノ社員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在テハ他ノ無限責任社員ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取ルコトヲ得舊商法第八四八條獨商法第四七〇條)

此規定ハ曩ニ說キタル船舶ノ共有ニ於ケル持分ノ讓渡ハ自由ナリトノ原則ニ對スル第二ノ例外ナリ(第一ノ例外ハ第百五十一條但書ナリ)船舶ノ賣却ハ內國人ニ限ラス外國人ニ對シテ爲スモ妨ケナシト雖モ船舶ノ共有者カ其持分ヲ外國人ニ讓渡シタルトキハ船舶法第一條ノ規定ニ從ヒ其船舶ハ日本船舶タルヲトノ資格ヲ喪失スヘク一人ノ共有者ノ行爲ノ爲メ他ノ共有者ハ其意思ニ反シ其共有船舶ヲシテ日本船舶タル利益ヲ受クルコトヲ得サラシム元來政略上ヨリ言フモ船舶所有權ノ一部分ノ外國所有ニ歸シタルカ爲メニ本國航海ノ減少スルハ喜フヘキニ非サレハ以上ノ公益ト他ノ共有者ノ利益ノ爲メニハ正當ノ方法ニ依リテ其國民ノ所有船舶ヲ維持スルヲ得セシムルコトヲ必要トスルカ故ニ本條ヲ設ケ第一、他ノ共有者ニ賣主ノ意ニ拘ラサル法律上ノ先買權ヲ付與シタリ而シテ此場合ニ於テハ他ノ共有者カ其持分ヲ買取ルニハ相當ノ代價ヲ支拂ハサルヘカラス其代價ノ相當ナルヤ否ヤハ事實問題ニ屬ス舊商法第八百四十八條但書ニ「自己ノ計算ニ引受クル場合ニ在テ已ムヲ得サルトキハ裁判上ノ手續ヲ以テ其股分ノ價額ヲ定ム」トアリテ此場合ニ代價額ノ協議調ハサルトキハ裁判上ノ手續(鑑定)ヲ以テ其價額ヲ定ムルコトト爲シ本法ニハ之ヲ明言セサレトモ當事者間ニ代價ニ付テ爭ヲ生シタルトキハ勢ヒ裁判所ノ認定ヲ請フノ外アラサルナリ但シ此場合ニハ簡便ナル手續ノ設アルヲ見サレハ訴訟ヲ以

アスルヿヨリ外アラサルナリ第二若シ他ノ共有者中譲渡持分ヲ買取ルヿヲ欲セス若クハ能ハサルトキハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルヿヲ得ルモノトス

以上ノ場合ニ於テハ其賣却シタル持分ノ數ノ多少ハ之ヲ問フヿヲ要セス例ヘハ二人ニシテ全船舶ノ十分ノ八九ヲ所有シ他ノ共有者ハ僅ニ其二分ヲ所有スルトセンカ其多數ノ持分ヲ以テモ少數ノ持分ヲ付與セラレタル特權ニ服從セサルヘカラサルハ怪シムヘキ觀アルカ如シト雖モ持分多少ノ差ヲ定ムルハ殆ト難ク且ツ國籍ノ公權ハ私法上ノ所有權ノ上ニ在ルヿキナリ而シテ又此規定ハ條文ニハ賣ク船舶共有者ノ持分ノ移轉ナルカ故ニ賣買讓渡ノ場合ニ限ラス相續、結婚等ニ因リテ持分ノ移轉スル場合ニモ適用スヘキナリ

此規定ハ他ノ立法例ニ徵スルモ或國ハ外國人ニ對スル讓渡ハ無效ナリト爲シ或國ハ外國人ニ船舶ヲ讓渡セハ其國籍ヲ喪失スト爲シ又或國ハ其船舶ニ備ヘテアル船籍證書、船舶登記證書等各種ノ證書ヲ取上ケ再ヒ之ヲ下付セサルヿトナシ若クハ其證書ニ外國人カ共有持分ヲ所有スル旨ヲ記入シ各港ヨリ其船舶ノ發航ヲ禁止スルヿトセリ而シテ我邦ニ於テハ所謂公平主義ヲ執リ外國人ニ對スルハ讓渡ス間ニ之ヲ許シ他ノ共有者ニ先賣權ヲ與ヘ又ハ其競賣ヲ請求スルヿヲ得セシメタルニ過キサルナリ

日本ニ本店ヲ有スル商事會社ハ總テ其社員ニ外國人ナリト雖モ船舶法第一條第三號ノ規定ニ適スルトキハ其所有船舶ハ日本船舶タル資格ヲ有ス詳言スレハ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全部株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルトキハ其所有ノ船舶ハ日本船舶タルヿヲ然ルニ其會社ニシテ社員ノ持分ヲ移轉ニ因リ會社ニ屬スル船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スルヿアリ例ヘハ外國人カ合名會社ノ社員、合資會社若クハ株式合資會社ノ無限責任社員ト爲リタル場合ニ於テハ其會社所有ノ船舶ハ日本ノ國籍ヲ喪失ス此場合ニ於テモ前ノ場合即チ船舶共有者カ外國人ニ其持分ヲ讓渡ス場合ト同シク法律ハ合名會社ニ在リテハ他ノ社員合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ他ノ無限責任社員ニ先賣權ヲ與ヘタリ蓋シ船舶カ會社ノ所有ニ屬スルニ其社員カ會社ノ持分ヲ讓渡セタルカ爲メニ船舶法ノ規定ニ從ヒテ日本船舶ノ國籍ヲ喪失スルハ他ノ社員ノ意思ニ反セ

其利益ヲ害シ且ツ日本ノ公益ニ關スルヲ以テ前ノ場合ニ於ケルト同一ノ制限ニ從ハシメタルナリ

舊商法ニ於テハ會社ニ競賣ノ請求權ヲ與ヘテ社員ニハ先買權若クハ競賣ノ請求權ヲ與ヘサリシカ新法ニ於テハ社員ニ右ノ權利ヲ與ヘ會社自身ニハ之ヲ與ヘサルノ差アリ若シ之ヲ舊商法ノ如ク會社ニ先買權若クハ競賣ノ請求權ヲ與フルコトト爲ストキハ會社ニ在リテ外國人カ勢力ヲ占ムルトキハ先買若クハ競賣ノ請求ヲ爲サヽルコトノ議決ヲ爲スノ虞アリテ此ノ如クナルトキハ此規定ヲ設ケタル精神ニ背クヲ以テ本法ニ於テハ社員ニ右ノ權利ヲ與フルコトト爲シタル所以ナリ

○船舶ノ賃貸借―第五百五十六條　船舶ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得セタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

船舶ノ賃貸借ハ曩ニモ說キタルカ如ク船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲セタル場合トハ異ニシテ民法ニ於ケル不動產ノ賃貸借ノ如ク賃借人カ船舶ヲ借受ケ自ラ艤裝セテ之ヲ航海ノ用ニ供スルナリ而シテ又船舶ハ元來動產ナレトモ不動產ト同視セラルル場合數多アルコトモ既ニ船舶ノ讓渡(第五四〇條)ニ付キ說キタルカ此場合モ亦不動產ト同視セラルル場合ノ一ニシテ船舶ノ賃貸借ハ民法ニ規定スル不動產ノ賃貸借ノ如ク之ヲ登記スルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ之ヲ對抗スルコトヲ得ルモノト爲セリ民法第百七十七條ニ依レハ不動產ニ關スル物權ノ喪失及ヒ變更ハ登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ之ヲ對抗スルコトヲ得ス而シテ其賃貸借ハ舊民法(財產編第二條第三號)ニ於テハ之ヲ物權ト爲シタルニ反シ新法ハ之ヲ債權ト爲シタリ然レトモ民法第六百五條ニ於テ不動產ノ賃貸借ノ登記ヲ認メ之ヲ登記シタルトキハ爾後其不動產ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生スルコトト爲シタリ蓋シ不動產ヲ賃借シテ之ヲ利用スルニ當リ容易スク第三者ヨリ其權利ヲ動カサルルコトアラハ賃借人ノ不利益ヲ受クルコト甚タ大ナルヲ以テ法律ハ其保護ノ爲メニ之カ登記ヲ認メ爾後其不動產ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對抗スルコトヲ得ルコトト爲シタルモノニシテ船舶モ亦之ト同シク登記ノ方法ヲ設ケ之ヲ爲シタル賃借人ヲ保護スルコトト爲シタリ故ニ船舶ノ賃借

人カ其權利ヲ以テ第三者ニ對抗セントスルトキハ必ス其賃貸借ヲ登記セサルヘカラス

○賃借人カ船舶ノ利用ニ付キ第三者ニ對スル權利義務ノ關係―第五百五十七條

船舶ノ賃借人カ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船舶所有者ニ對シテモ其效力ヲ生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

船舶ノ賃借人カ營利ノ目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シ廣タ第三者ト運送契約ヲ締結シタル場合ニ於テハ第三者ニ對シテ權利義務ノ關係ヲ有スル者ハ船舶所有者ナルカ將タ賃借人ナルカ又船舶所有者カ船舶債權者ニ對シテ船舶及ヒ運送賃等ヲ以テ責任ヲ盡スヘキ場合ニハ船舶所有者カ之カ責任ヲ有スルカ將タ賃借人カ自己ノ財產ノミヲ以テ責任ヲ盡スヘキカ其第一問ニ付テハ其運送契約ノ當事者ハ船舶所有者ニ非スシテ船舶ノ賃借人タルコト論ヲ俟タ

ルナリ故ニ船舶賃借人カ其營業ニ關シテハ第三者ニ對シテ權利ヲ得義務ヲ負フモノニシテ船舶所有者ハ毫モ之ニ關係ヲ有セサルナリ例ヘハ賃借人カ運送契約ヲ爲シタル場合ニ於テ積荷カ毀損シ若クハ陸揚港ニ到著セサルトキハ荷送人ハ賃借人ニ對シテ其損害ヲ請求セサルヘカラス又積荷ノ運送賃ニ付テハ賃借人ノミ請求權ヲ有スルモノニシテ船舶所有者ハ積荷ニ對スル損害ノ責任ナク亦運送賃ニ付キ請求權ヲ有セサルナリ蓋シ船舶ノ賃借人カ運送契約ノ當事者タル場合ニ於テハ賃借人カ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有スルニ非スンハ到底運送契約ノ目的ヲ遂スルコト能ハサルヲ以テ右第一項ノ規定ヲ設ケタルナリ然レトモ此意義ハ賃借人ハ營業上ノ取引ヨリ生スル權利義務ノ關係ヲ有スルニ止マリテ船舶所有者ノ所有スル船舶ニ付キ毫モ權利義務ノ關係ヲ生セスト云フニハ非サルナリ右第一項ハ獨逸商法第四百七十七條第一項ノ解釋ト同シク賃借人ハ船舶利用團體ノ營業ノ結果トシテ生スル權利義務ヲ有スルコトヲ指シ全然船舶所有權ノ結果トシテ見ルヘキ權利義務ヲ有スルノ意ニ非サルモノト解釋スルヲ穩當ト爲スカ故ニ賃借人ハ船長カ船舶

讓渡ノ權限ヲ有スル場合ニ限リタハ船舶ヲ讓渡スコトヲ得ル(第五七〇條)モノニシテ其他ノ場合ニ於テハ船舶所有者ノ位置ニ立チテ船舶ヲ讓渡スコトヲ得ルナリ

又貸借人カ船舶ノ利用ニ關シテ數多ノ債權者ヲ生ゼ又數多ノ優先權者ヲ生スルコトアルヘシ此場合ニ於テ船舶貸借人ハ船舶ノ所有者ニ非サルカ故ニ其所有ニ非サル船舶ニ對シテハ債權者カ先取特權ヲ行フコトヲ得サルモノト爲ストキハ債權者ヨリ觀レハ船舶所有者カ自身ニ其船舶ヲ航海ノ用ニ供スル場合ト貸借人カ之ヲ利用スル場合ト毫モ異ナル所ナキニ彼場合ニハ船舶カ債權ノ擔保ト爲リ此場合ニハ然ラスシテ其間大ニ公平ヲ失シ又法律カ或種ノ債權者ヲ保護スルカ爲メニ先取特權ヲ與ヘタル目的ヲ遂スルコトヲ得サルモノニシテ隨テ其結果航海業ノ進歩ヲ妨害スルコトアルモ知ルヘカラス而シテ船舶ヲ貸貸シタル場合ニ於テ船舶債權者カ之ニ對シテ先取特權ヲ行使スルコトヲ得ルモノトスルトキハ船舶所有者ハ之カ爲メニ大ニ迷惑ヲ被ルコトアルヘシト雖モ既ニ船舶ヲ貸貸シ營利ノ爲メニ之ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ許諾シタル以上ハ其結果種種ノ先取特權者ヲ生シ之カ權利行使ヲ對抗セラルルコトアルハ當初既ニ許諾シタル所ナリト謂ハサルヲ得ス若シ船舶所有者ニ於テ貸貸ヲ爲シタル場合ニ於テ其船舶カ先取特權ノ目的タルコトヲ欲セサルニ於テハ之ヲ貸貸セスシテ自ラ之ヲ利用スレハ可ナリ然レトモ此場合ニ於テハ固ヨリ船舶ハ先取特權ノ目的タルヘキナリ

貸借人カ船舶ヲ利用スル場合ニ於テ右ニ說キタルカ如ク其船舶ハ先取特權ノ目的タルヲ原則ト爲スト雖モ若シ先取特權者ニシテ貸借人ノ船舶ノ利用カ貸貸借契約ニ背戻スルモノナルコトヲ了知セル場合ニ於テハ船舶所有者ニ對シ其權利ヲ行使スルコトヲ得サルモノト謂フコトヲ得サルヘシ此場合ニ於テ債權者ニ損害アルトモ是レ自業自得ニテ生シタルモノニシテ他ニ對シテ苦情ヲ唱フルコトヲ得ス是ヲ以テ惡意者ハ法ノ保護ヲ受クルヲ得サル原則ニ從ヒ但書ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

以上ノ規定ハ船舶ノ貸借人カ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキニ限リ適用セラルルモノニシテ其他ノ場合ニハ之カ適用ヲ受ケサ

ルナリ蓋シ最ニモ說キタルカ如ク海商法ニ於ケル船舶ハ營利ノ目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノ(第五三八條)タルコトヲ要スルカ故ニ此場合ニ右ノ如ク規定スルハ至當ノコトニ屬ス

第二章 船員

船員ト曰フモ海員ト曰フモ普通用フル所ノ意義ハ其間區別ナキモノノ如シト雖モ法律上ニ於テハ二者相同シキモノニ非ス船員トハ廣キ意義ニシテ船長及ヒ海員ヲ包含シテ之ヲ稱シ海員トハ船長以外ノ一切ノ乘組員ヲ謂フ(船員法第二條)而シテ船員ヲ船長及ヒ海員ノ二者ニ區別スルハ恰モ商業使用人ヲ分チテ支配人ト番頭其他ノ使用人トノ爲スト同シク權限ノ大小ノ差異アルニ基クモノトス

本章ヲ分チテ二節トス第一節船長第二節海員是ナリ

第一節 船長

ノ反對アリシ所ナレトモ學問社會ニハ依然トシテ用ヒラル[illegible]レ」ノ名辭ヲ用フル者アレハ「フォルクスウヰルトシャフツレーレ」ト稱スル人モアリ方今最モ多ク使用セラルル名辭ハ此二者ニ非スシテ蓋シ「ナチヨナル、オエコノミー」ナラン然レトモ亦往往ナチヨナル、オエコノミー」トハ本來單ニ經濟ノ實際ヲ意味スル語ナレハ之ニ關スル原理原則ヲ攻究スル學問ハ宜シク之ヲ「ナチヨナル、オエコノミックス」ト稱スヘシ是レ語尾ノ由來ヨリシテ考フルモ當ニ然ルヘキコトナリトノ說ヲ爲ス者アリ「ワグネル」氏ノ如キハ「ポリチツシエー、オエコノミックス」ヲ名辭ヲモ之ト同意義ニ用ヒタリ

惟フニ獨逸ノ諸學者カ純粹ノ獨逸語ヲ使用スルニ際シ「フォルクスウヰルトシャフト」(即チ直譯スレハ國民經濟)ト「フォルクスウヰルトシャフツレーレ」(即チ直譯スレハ國民經濟學)トヲ區別シ外國出ノ語ヲ使用スルニ當リテハ「ナチヨナル、オエコノミー」(即チ直譯スレハ國家經濟及ヒ「ポリチツシエー、オエコノミー」ト「ナチヨナル、オエコノミックス」(即チ直譯スレハ國家經濟學)及ヒ「ポリチツシエー、オエコノミックス」トヲ區別スルハ頗ル進歩セル思想ニシテ學理上最モ至當ノコトナ

ル（レ）リ怪ム先輩諸學者カ何カ故ニ更ニ一歩ヲ進メテ斯學ヲ稱シテ「ツオチアール、オエコノミツク」ト曰ハサルヲ(ニ三)「フオルタスウキルトシヤフツレー(ニ四)」「フオチアール、オエコノミツク」直譯スレハ社會經濟學デフ語ハ外國語トシテハ最モ適當ナルヘシトハ六七年前ヨリ予ノ唱フル所ナリ當時何人モ此語ヲ用フル者ナカリシカ二三年前獨逸ノ若手ノ經濟學者「デーツエル」氏カ「ワグネル」先生ノ依頼ニ應シ經濟學全書ノ一部分ヲ引受ケ純正經濟學ノ原理原則ヲ攻究スル部分ヲ著ハセルニ際シ之ヲ名ケテ「ツオチヤール、オエコノミツク」ト稱スルヲ適當トスト曰ヘリ東西相隔離シ氏ト予トハ互ニ意見ヲ吐露セシコトナシト雖モ而モ所思ノ符合セル亦奇ト謂ツヘキナリ但シ「デーツエル」ハ之ヲ單ニ經濟學ノ一部分タル純正經濟學ノ名稱ニ用ヒタルモノニシテ其經濟學全體ニ取リテ適當ナルヤ否ヤハ別ニ明言セサリシモ予ハ之ヲ全體ニ適用スヘキモノナリト信ス何カ故ニ此語ヲ最モ適當ナリト考フルヤハ以下ニ述フル所ナリ

「ポリテクノミー」ト「ポリテクノミー」ト「ナチヨナルオエコノミツク」ト「ツオチヤール、オエコノミツク」ト

謂ヒ共ニ皆意義少シク狹隘ニ失スルノ憾アリ「ツオチヤール、オエコノミツク」ニ至リテハ更ニ斯ル短所ナシ是レ予カ獨逸語トシテハ此名辭ヲ採リ英語トシテハ此獨逸語ニ相當スル「ソーシヤル、エコノミツクス」テフ名辭ヲ採ル所以ニシテ本邦ニ於テモ若シ故ラニ新規ノ名辭ヲ用ヒントセハ此語ノ適譯タル社會經濟學テフ名辭ヲ採ラント欲スル所以ナリ若シ夫レ外國語トシテハ新規ノ名辭ヲ可トシ邦語トシテハ之ヲ必要ナラストスル所以ハ彼ニ在リテハ從來便用シ來レル名辭頗ル曖昧模糊トシテ種種ノ誤議ヲ來シ易ク我ニ在リテハ從來ノ如ク斯學ヲ稱シテ單ニ之ヲ經濟學ト曰フモ格別ノ不都合ヲ感セサレハナリ

前ニ經濟學ノ定義ヲ以テ人類社會ニ關スル學問ニシテ專ラ其財貨上ノ現象ヲ攻究スルモノナリト爲セリ然レトモ是レ頗ル漠然トシテ其意義ヲ十分明カニスルニ多少ノ困難ヲ感スルモノナリ近來經濟學ハ實ニ長足ノ進歩ヲ露シ其範圍内ニ於テ種種ノ部門ヲ生シ來リタレハ此等ノ部門ヲ總テ包含スルニ適當ナル定義ヲ下サント欲スレハ勢ヒ漠然タルヲ免レス故ニ此定義ノ意義ヲ十分明カニセント欲セハ猶ホ進ミテ現今經濟學中ニ包含サルル各部門ノ何タルヲ知

ヲサルヘカラス(二四)

(二四)　英國ノ經濟學者ハ經濟學ノ一部分タル純正經濟學ヲ利害得失ノ關係ヲ離レテ論スルヲ以テ一ノ獨立シタル學問ト爲セトモ而モ他ニ經濟ニ關スル學問アルヲ認メス利害得失ヲ斟酌シテ攻究スル者ハ之ヲ單ニ實際論タルニ過キスト爲セリ然ルニ經濟學ハ近世ニ至リ非常ニ發達シ純粹ノ原理原則ヲ攻究スル所謂純正經濟學カ一箇ノ學問トシテ成立スルノミナラス之ヲ主タル基礎トシテ經濟政策ヲ攻究スルモノモ經濟學中一ノ嚴然タル部門ト爲ルニ至レリ隨テ經濟學ノ全體ニ對シテハ漠然タル定義ニ非サレハ總テノ部門ヲ包含セシムルヲ得ス特ニ財政學ノ如キハ一般經濟學ト離レテ獨立スルモノナリト論スル者スラアルカ如ク各部門殆ト獨立ノ觀アリ故ニ予ハ經濟學全體ニ對シテハ前述ノ如キ定義ヲ下シ此等ヲモ概括セシメント欲スルモノナリ然レトモ單ニ此漠然タル定義ノミニテハ恰モ骨ト皮トノミヲ有スルモノノ如ク未タ血ト肉トヲ具ヘサルナリ故ニ是ヨリ進ミテ各部門ニ論及シ之ニ對スル定義ヲ下シ以テ血ト肉トヲ加ヘント欲ス

第三編　經濟學ノ分科

經濟學上ノ原理原則ヲ分チテ二種ト爲ス其一ハ純粹ノ學理ノ攻究說明ニ關シ事實ヲ有リノ儘ニ記述シ之ヲ原因結果ノ理ニ照シテ過ツコトナキヲ以テ目的トス他ノ一ハ前者ノ結果ヲ應用シ他ノ學問ノ原理原則ヲ斟酌シ以テ社會國家ノ經濟上ニ於ケル目的ヲ達シ其繁榮ヲ圖ルノ手段方法ヲ研究シ說明スルヲ目的トス故ニ二者ノ區別ハ尚ホ文法ノ直說法ト命令法トノ區別ノ如シ(一)

(一)　前者ハ單ニ或經濟上ノ現象ヲ觀察シ其性質ヲ究メ如何ナル原因ヨリ生シ如何ナル結果ヲ來スヤヲ攻究シ且ツ說明スルモノニシテ其利害得失ニ論及セス隨テ之ニ關スル政策上ノ手段方法ヲ研究スルヲ目的トセス之ニ反シテ例ヘハ物價ハ需要供給ノ關係ニ因リテ高低ストノ原則前種ノ攻究ニ據リテ定リタルトキハ或場合ニ於テ現ニ物價ハ騰貴シ居ルカ故ニ之ヲ下落セシメサルヘカラス之ヲ下落セシムルニハ如何ニセハ可ナルヤノ問題ヲ解クノ必要アラシカ前者ニ據リテ定リタル需要供給ノ原則ヲ應用シ需要ヲ減ス

ルカ又ハ供給ヲ增スカ或ハ雙方ノ手段共ニ之ヲ行フヘキヤヲ攻究說明スルカ如キハ後種ノ職分トスル所ナリ故ニ前者ハ頗ル冷冷淡淡タルモノニシテ後者ハ社會人類ノ利害得失ニ對シ熱情ニ富ムモノト謂フヘシ

前種ノ原理原則ヲ攻究スルモノヲ稱シテ之ヲ純正經濟學ト曰フ或ハ之ヲ稱シテ純理經濟學ト曰ヒ以テ純正ノ意味ヲ眞正又ハ正統ノ意味ニ解釋セラルルノ恐アルヲ避ケント欲スル者アリ是レ實ニ一理アルコトナレトモ純正ノ熟語ハ既ニ理化ノ學ヲ始メ他ノ諸學科ニ於テ多年使用シ來リ別ニ不都合ナク一定ノ意味ヲ有スルニ至リ居レハ經濟學ニ於テモ亦此熟語ヲ用フルヲ以テ至當ト信ス或ハ又純正經濟學ヲ稱シテ經濟學ノ原理ト曰フ者アレトモ是レ當ラス何トナレハ後種ノ原理原則ヲ攻究スルモノモ亦等シク經濟學ノ原理ト名クヘケレハナリ(二)後種ノ原理原則ヲ攻究スルモノハ實ニ之ヲ應用經濟學ト名ク從來

(二) 歐洲ノ經濟學者中ニモ前種ノモノニ對シテ經濟學ノ原理ト直譯スヘキ名辭ヲ用フル者アリ然レトモ經濟上ノ利害得失ヲ考ヘ之ニ對スル手段方法ヲ明カニスル後種ノ原理原則モ亦經濟學ノ範圍內ニ於ケル原理原則ナリ經

濟學ノ原理ナフ語ハ兩者ニ共通ニシテ其中ニ自ラ二種ノ細別アルニ過キスト謂ハサルヘカラス然ルニ之ヲ一方ニノミ用ヒントスルハ恰モ男女兩性ヲ包含スル名辭タル人ヲフ名辭ヲ以テ男子ノミニ用ヒントスルカ如シ是レ勿論正當ニ非サルナリ

英佛米等ノ諸學者カ經濟學ニ與ヘタル定義ノ多クハ其一分科タル純正經濟學ノ定義トシテハ多少不完全ナル所アレトモ大ナル過失ハ之ナシ唯奈何セン之ヲ近年非常ニ進步發達セル經濟學ノ全體ニシテ應用的ノ原理原則ヲモ包含スルモノニ適用セント欲スレハ到底其狹隘ニ失スルヲ免レサルヲ蓋シ彼等多數學者ノ眼中ニハ未タ曾テ經濟學全體ノ一分科トシテノ應用經濟學之アラサリシナリ或ハ之アルヲ得サリシナラン

然ラハ則チ經濟學ノ現狀ニ於テ純正經濟學ノ職分トシ又ハ職分トスヘキ所ハ果シテ何レニ在リヤ是レ先ツ第一ニ決定スヘキ必要アルコトナラン故ニ予ハ先ツ第一ニ之ヲ決定シ然ル後進ミテ應用經濟學ノ何物タルヤニ論及セント欲ス

惟フニ純正經濟學ノ當然職分トシ又ハ職分トスヘキ所ハ人類社會ニ於ケル財貨ノ現象ニ付キ其一般普通ニ有スル性質ト其相互ニ依レル關係トヲ觀察シ之ヲ原因結果ノ道理ニ照シテ推論シ以テ財貨ニ關スル一般普通ノ原理原則ヲ發見シ又ハ概說スルニ在ラン(三)他語以テ之ヲ言ヘハ純正經濟學トハ社會國家ヲ

(三) 此所ニ純正經濟學ノ當然職分トシ又ハ職分トスヘキ所ト曰フハ是レ學者ノ各其見解ヲ異ニスルヨリシテ或學者ノ以テ當然ノ職分ト爲スモノモ或學者ハ之ニ反對シ純正經濟學ノ見解人ニ依リ頗ル異ナレハナリ蓋シ純正經濟學ノ當然職分トシ又ハ職分トシテ講究スヘキ所ハ人類社會ニ於ケル財貨ノ現象中社會ノ或一部又ハ一地方ニ限レル特別ノ性質ニ非スシテ財貨カ何レノ國ニ於テモ亦一國內ノ何レノ部分ニ於テモ敢テ異ナル所ナク普通一般ニ有スル性質ナリ特別ノ事情ノ下ニ在リテ特別ノ性質ヲ有スルモノハ唯參考トシテ研究ノ材料ト爲ルコトアルモ純正經濟學ニ於ケル本來ノ研究ノ目的ニ非ス而シテ財貨ノ現象ハ總テ相互ニ種種ノ關係ヲ有ス即チ或ハ原因結果ノ關係ヲ有スルコトアリ或ハ斯ル關係ナキモ或一ノ現象アレハ同時ニ必ス之ニ伴フ現象ヲ見ルコトアリ此ノ如キ關係ヲ善ク觀察シ經濟現象ノ原因ト結果トカ如何ナル振合ニ於テ成立スルヤヲ原因結果ノ道理ニ照シテ攻究シ財貨ニ關スル現象カ世上ニ表ハルルニ當リテ其普通一般ニ據レル原理原則ハ如何ナルモノナリヤヲ發見シ或ハ既ニ發見セラレテ疑フヘカラサルモノナル以上ハ發見ノ結果ヲ一般的ニ說明スルハ純正經濟學ノ當然職分トシ又ハ職分トスヘキ所ナリ

組成スル民衆カ一定ノ秩序ニ從ヒ規則正シキ方法ニ依リテ其望ヲ滿タサントシテ經營スル活動ノ總稱タル社會經濟又ハ國民經濟ニ關スル一般ノ原理原則ヲ攻究スルモノナリ(第一編第一章第一項ヲ參照スヘシ)故ニ純正經濟學ハ物理學、純正化學、動物學、植物學等ト敢テ異ナルコトナク或種類ノ現象ニ關スル一般普通ノ原理原則即チ所謂天則(人爲ヲ全ク度外視スルモノニ非ス)ヲ攻究スルモノナリ隨テ其目的トスル所ハ純粹ノ眞理ニ在リテ利害得失ニ在ラサルナリ(四)

(四) 純正經濟學ハ物理學純正化學等ト純粹ノ學問タルノ點ニ於テハ敢テ異ナルコトナク又其攻究ノ方法モ演繹歸納ノ二論法ニ據ルノ點ニ於テ同シ又

一般普通ノ原理原則ヲ講究シ特別ノ事情ノ下ニ立テル經濟現象ノ特別ノ性質ヲ攻究スルモノニ非サル點モ亦此等ト異ナルコトナシ唯其攻究スル目的物カ社會經濟ノ現象ニ在ルノ點ニ於テ差違アルノミ純正經濟學ハ實ニ土木工學又ハ採鑛冶金學ノ如キ應用的ノ技術ヲ攻究スル學問ト異ナリ一般普通ノ原理原則即チ天則ヲ利害得失ノ關係ニ頓著ナク攻究スルモノナリ天則ト云ヘハ全ク人ヲ離レテ自然ニ行ハルル法則ノ如ク解セラルルモ經濟上ノ天則ハ人ノ行爲ヲ全ク離レタルモノニ非ス偶人ノ關係ヲ離レテ存スルカ如ク見ユルモノナキニ非サレトモ斯ル現象ハ其實人ノ行爲ニ支配セラルルモノナリ特ニ人ノ作レル法律宗教等ニ影響ヲ及ホサルルコト多シ故ニ經濟上ノ天則ハ固ヨリ人ノ行爲ヲ度外視スルモノニ非ス隨テ純正經濟學ノ目的トスル所ハ純粹ノ眞理ニ在リ眞理ヲ發見シ說明スレハ其職分足レルモノニシテ利害得失ハ其直接ニ關係セサル所ナリ故ニ經濟學ノ或原理原則ヲ一般普通ノ眞理トシテ發見スルニ當リテハ其原理原則ハ人間社會ノ不幸ナル出來事ヲ來シ或ハ不幸ナル運命ヲ人類ノ有スル者ナルコトヲ暴露スル者アルヤモ

知ルヘカラス然レトモ是レ純正經濟學ノ關セサル所ニシテ此ノ如キカ果シテ眞理ナル以上ハ職分トシテ默スルヲ得サルナリ例ヘハ純正經濟學ニ於テ土地ハ元來限アリ而シテ一定ノ土地ノ生產力モ亦無限ニ非ス故ニ如何ニ多クノ勞力若クハ資本ヲ投スルモ之ニ應スル丈ノ生產ノ結果ヲ見ルヲ得サル時期ノ來ルコトアルヘシ之ヲ稱シテ土地ノ收益遞減法ト曰フ此ノ如キハ疑フヘカラサル眞理ナレハ之ヲ曲クルヲ得ス若シ之ヲ說カサラシカ純正經濟學ハ其職分ヲ盡シタルモノニ非ス其之ヲ如何ニスヘキヤノ救濟方法ヲ運ラスハ純正經濟學ノ關スル所ニ非ス之ヲ應用經濟學ノ爲スヘキ所ナリ此ノ如ク純正經濟學ノ職分トスル範圍ハ之ヲ眞理ノ攻究ニ限ラサレハ斯學ノ進步發達覺束ナシ凡ソ學問ノ進步セサル原因中範圍ノ定マラサルヨリ其影響ノ大ナルハナシ特ニ人類ノ利害得失ニ直接ノ影響ヲ及ホスモノニ關スル原理原則ハ往往利害得失ノ影響ヲ混シテ之ヲ攻究スルノ弊偶眞理ノミヲ目的トシテ攻究スル者アレハ幼稚ナル時代ニ於テハ世人動モスレハ之ヲ咎メ甚シキニ至リテハ眞理ニ忠ナル者却テ刑罰ニ處セラルルコトアリ例ヘハ「マルサ

ス「ハ人口論ヲ著ハシ人口ハ際限ナク增加シ食物之ニ伴ハサル事トアリ然レトモ又天災、地變、戰爭、疾病等ノ爲メ人口ノ增加ヲ妨クルコトアリト論セシコトアリ此理論ハ經濟學上絕對的ニ正當ト認ムヘキモノナルヤ否ヤハ別問題ナレトモ「マルサス」ノ目的ハ人口論ヲ單ニ純粹ノ眞理トシテ攻究スルニ在リシナリ然ルニ當時ノ人ハ其言ヲ妄ナリトシ「マルサス」ハ人口ノ增加ヲ妨クル方法ヲ講スルモノナリ即チ天災、地變等ヲ希望スルモノナリト附會シテ之ヲ攻擊シタリ蓋シ經濟學ハ人類ニ直接ノ利害得失ノ關係アルカ故ニ此ノ如ク附會セシモノナレトモ餘リ人ニ直接ノ關係ナキ天文學ノ如キニ於テモ「コペルニカス」カ地動說ヲ唱ヘテ磔刑ニ處セラレタルカ爲メ其進步ノ一時中止サレタルカ如キコトアリ故ニ經濟學ニ於テハ特ニ此點ヲ明カニシ眞理ノ攻究ト利害得失問題ノ攻究トヲ區別セサレハ其進步ヲ見ルヲ得サルナリ然ルニ現今ニテモ往往二者ヲ混同シ不便ヲ感スルコトアリ宜シク注意セサルヘカラス

之ニ反シテ應用經濟學ハ眞理ノミヲ目的トセス眞理ヲ基トシテ利害得失ノ關係ヲ攻究シ社會經濟ニ對スル手段方法ヲ發見シ說明スルモノナリ應用經濟學ハ純正經濟學ヲ重ナル基礎トシテ人類ノ經濟上ニ於ケル目的ヲ時ノ事情ニ照合シテ最モ善ク達スヘキ手段方法ヲ吾人ニ指示スルモノナリ(五)

(五) 應用經濟學ハ眞理ヲ度外視シ又ハ之ヲ排斥スルモノニ非サレトモ眞理ノミヲ目的トスルモノニ非ス其眞理ヲ基トシ一步ヲ進メテ利害得失ノ關係ヲ究メ之ニ鑑ミテ一般ニ社會經濟ニ對シ如何ナル手段方法ヲ執ルヘキヤヲ攻究スルモノナリ而シテ其基礎ノ重ナルモノハ多クハ純正經濟學ノ原理原則ナリトス然レトモ絕對的ニ何レノ時何レノ場所ニモ適スル應用經濟學上ノ原理原則ヲ發見スルハ到底爲シ能ハサル事ナレハ此學ノ原理原則モ單ニ一般的ノ原理原則トシテ掲ケラルルノミ之ヲ實地ニ施スニ當リテハ時ト所トノ事情ニ應シ多少ノ斟酌ヲ加ヘテ用ヒサレハ功ヲ奏セサルナリ故ニ應用經濟學ハ恰モ應用醫學ノ如ク又應用經濟學ヲ實地ニ用フルニ當リ時ト所トノ事情ニ應シテ斟酌スルヲ要スルハ恰モ醫師カ處方書ヲ與フルニ當リ患者ノ年齡、身體ノ强弱等ニ因リ服用ノ分量度數時期等ヲ定ムルカ如キモノナリト謂フヘシ

應用經濟學ハ實ニ一種ノ技術的學問ナリ人或ハ應用經濟ヲ論スルハ單ニ實際家ノ爲スヘキコトナリ應用經濟學ハ學問ニ非スト謂フ者アレトモ是レ未タ經濟學現時ノ進歩ヲ知ラサル者ノ言ノミ經濟學ハ理化ノ學ト異ナリ尚ホ頗ル幼稚ナルハ實ニ疑フヘカラスト雖モ其今日ノ有樣豈ニ其一分科タル應用經濟學ヲ以テ一種ノ學問ト看做スニ足ラサランヤ學問トハ單ニ物理學化學等ノ如キ比較的ニ完全ノモノノミニ限ラサルナリ(六)然リト雖モ應用經濟學ハ既ニ其名(六)應用經濟學ハ四五十年前マテハ皆無ナリシカ今猶ホ之ヲ皆無ナリトスル國モアリ然シトモ經濟學ノ最モ進歩シタル國ニ於テハ既ニ學問ト稱スルニ足レル形體ヲ十分ニ具ヘ屆リ研究ノ體裁系統等善ク立チ敢テ時事問題ニ對スル議論ニ過キサルモノニ非サルナリ固ヨリ不完全ノ點ハ之アレトモ不完全ナルカ爲メ學問ニ非スト謂フヲ得ス若シ比較的完全ナルモノノミカ學問ナリトセハ抑モ完全ノ程度ノ如何ナルモノナルヤハ到底之ヲ知ルヲ得ス此程度ニシテ定ラサランカ物理學化學數學ノ如キモ亦皆不完全ナル點アリト謂ハサルヘカラサルヘシ隨テ學問ナラサルヘシ畢竟不完全完全ノ別ハ到底程度ニ據レル別タルノミ是レ實ニ比較的ノ事ナリ故ニ單ニ不完全ナリトノ理由ヲ以テ應用經濟學ハ學問ニ非スト謂フヲ得サルナリ

轉ノ表明スルカ如ク決シテ純粹ノ眞理ノミヲ目的トスル學問ニ非ス寧ロ主トシテ利害得失ヲ攻究シ之ニ對スル手段方法ヲ究ムル技術的ノ學問ナリ論者其技術的ノ學問タルヲ聞キ之ヲ以テ寧ロ實際論ニアラスヤトノ念ヲ再ヒ起スコトアルヘシト雖モ是レ未タ技術ト實際トノ區別ヲ知ラサルニ座スルモノナリ抑モ技術ナルモノハ純粹ノ學問ト同樣ニ形而上ニ屬スルコトニシテ思想界ノ範圍内ニ在ルモノナリ之ニ反シテ實際トハ形而下ニ屬スルコトニシテ物質界ノ範圍内ニ在リ技術ヲ攻究ストハ實際ニ施シ得ヘキ手段方法等ヲ工夫スルノ謂ナリ實際ニ從事ストハ現ニ事ヲ執ルノ謂ナリ故ニ技術ハ畢竟自ラ實際ト異ナリ實際ト純粹ノ學理トノ中間ニ介立スルモノナリ(七)而シテ技術ヲ攻究スル(七)技術ト實際トノ區別ハ計畫ト實施トノ區別ノ如シ此二者ノ區別アルハ誠ニ明カナレトモ而モ二者ハ互ニ密著ノ關係アリ計畫ハ實地ニ行ハンカ爲メノモノニシテ實施ヲ巧ニセント欲セハ計畫ノ宜シキヲ要スルカ如キ即チ

二者ノ密著ノ關係アルヲ知ルニ足ルモノハ是レ即チ技術的ノ學問ナリ應用經濟學ハ社會國家ノ經濟ニ關スル一種ノ技術ヲ攻究スルモノナリ故ニ畢竟一種ノ學問タルニ外ナラス(八)縱令應用經濟ヲ論スルハ未タ學問ト稱スヘキモノニ達シ居ラストスルモ之ヲ論スルハ實(八)此所ニ所謂技術トハ此語ヲ汎ク解セルモノニシテ敢テ手細工ノ如キモノノミニ限ラサルナリ應用經濟學ハ一般的ノ計畫ヲ指示スル學問ナリ故ニ其原則ヲ實際ニ行フニハ其時時ニ際シ特別ノ事情ヲ斟酌セサルヘカラサルハ前ニ述ヘタルカ如シ例ヘハ「ロッシエル」ノ農業經濟論ヲ見テ之ヲ其儘我北海道ニ行ハハ必ス失敗ヲ免レサルヘシ之ヲ用ヒテ功奏スルト否トハ用フル人ノ巧拙如何ニ在リ

際家ノ事ナリ學者ノ事ニ非ストノ道理ハ萬萬之ナカルヘシ未タ學問ト稱スヘカラサルモノヲ取リテ之ヲ研究スルノ結果遂ニ之ヲシテ一箇ノ學問タラシムルハ是レ豈ニ學者ノ當然力ムヘキ所ナラスヤ否之ヲ爲スハ寧ロ學者ノ最モ名譽トスヘキ所ニ非スヤ經濟學ノ祖先アダム、スミス其人ノ如キ畢竟之ヲ爲シタル者ナリ應用經濟ヲ論スル如何ソ學者ノ職分外ナランヤ

應用經濟ヲ分チテ二門ト爲ス曰ク

第一　經濟政策學(一名經濟的行政學)

第二　單獨經濟政策學

是ナリ

經濟政策學トハ國家並ニ其機關カ如何ニシテ最モ善ク時ノ事情ニ應シ農工商等ノ經濟業務ヲシテ繁榮ナラシメ以テ社會經濟ノ全體ヲシテ進歩發達セシムルヲ得ルヤノ手段方法ヲ攻究スル者ナリ故ニ其目的トスル所ハ社會經濟ニ關スル政治ノ方針其方針ニ從フヘキ立法行政ノ組織並ニ活動ナリトス(九)

(九)經濟政策學ハ國家又ハ其機關カ農工商等一切ノ經濟業務ヲシテ一般ニ繁榮ナラシメ社會經濟ノ全體ヲシテ進歩發達セシムルノ手段方法ヲ攻究スルモノニシテ或時代或場合ニ應用スヘキ特別ノ手段方法ヲ攻究スルモノニ非ス各時代各場合ニ通シテ應用スヘキ學理ヲ闡明シ之ニ據リテ或時代或場合ニ處スル特別ノ手段方法ヲ執ルヲ得セシメント欲スルモノナルコト猶ホ

學者カ或患者ニ施スヘキ特別ノ處方ヲ講スルモノニ非スシテ一般的ニ治療ニ關スル原理ヲ講シ之ニ據リテ學アシテ特別ニ或患者ニ對シ施スヘキ處方ヲ得セシムルカ如シ故ニ先ツ經濟政策學ハ社會經濟ノ全體ニ對シテ國家又ハ其機關カ執ルヘキ方針ヲ講シ方針既ニ定マラハ之ニ從フヘキ立法行政ノ組織ヲ講シ併セテ其活動ヲモ講スルモノナリ

今茲ニ簡短ニ其細目ヲ擧クレハ左ノ如シ

甲　經濟政策汎論(一〇)

(一〇)　是レ社會經濟ノ全體ニ直接ノ關係アル經濟業務ニ對スル政策ヲ講スルモノニシテ即チ農工商等諸種ノ經濟業務中或一事項又ハ數事項ノミニ關スルモノニ非スシテ其全體ニ通スル政策ヲ講スルモノナリ

(イ)　度量衡政策

(ロ)　貨幣政策殊ニ本位政策

(ハ)　信用並ニ銀行政策

(ニ)　普通銀行政策

(ホ)　農業銀行政策

(ヘ)　工業銀行政策

(ト)　信用組合政策

(二)　保險政策

(イ)　保險政策汎論

(ロ)　生命保險政策

(ハ)　火災保險政策

(ニ)　海上保險政策

(ホ)　交通通信政策

(イ)　道路政策

(ロ)　鐵道政策

(ハ)　堀割運河政策

(ニ)　河川政策

(ホ)　航海政策遠洋航海政策並ニ沿岸航海政策

(ヘ) 郵便政策
(と) 電信政策
(ち) 電話政策

(ヘ) 營利的組合政策
(い) 合資會社政策
(ろ) 合名會社政策
(は) 株式會社政策
(に) 組合政策

乙 經濟政策各論(二)

(一) 是レ農或ハ工或ハ商等各種ノ經濟業務ニ對スル特別ノ政策的手段方法ヲ講スルモノナリ

(イ) 原始產業政策(二)

(二) 原始產業トハ自然力ニ依ルコト割合ニ多クシテ人力ヲ要スルコト割合ニ少キ產業ニシテ社會ノ未タ十分ニ發達セサル以前ニ在リテモ亦加ル

善ク發達セルコトアリシモノナリ

(い) 農業政策
(ろ) 牧畜政策
(は) 漁業政策
(に) 狩獵政策
(ほ) 森林政策
(へ) 鑛業政策

(ロ) 工業政策
(い) 大工業政策(機械工業政策)
(ろ) 小工業政策(手工業政策、家內工業政策)

(ハ) 商業政策
(い) 內國貿易政策
(ろ) 外國貿易政策

(ロ) 社會政策論(二)

（二三）近世ノ一大問題タル資本家ト勞働者トノ衝突ヨリシテ起ル所ノ社會問題ヲ如何ニ處分スヘキヤノ政策ヲ主トシテ講スルモノニシテ更ニ之カ細目ヲ分チハ勞働者ノ保護、工場ノ監督同盟罷工ノ處分等二三ニシテ足ラサルモ茲ニ之ヲ省ク

單獨經濟政策學トハ一箇ノ經濟團體トシテノ國家其モノ及ヒ國家内ニ存在スル種種ノ經濟團體カ如何ニシテ最モ善ク時ノ事情ニ應シテ自家經濟上ノ目的ヲ達スルヲ得ルヤヲ攻究スルモノナリ故ニ其目的トスル所ハ各經濟團體カ自家ノ繁榮ヲ謀ルカ爲メ執ルヘキノ手段方法ヲ說クニ在リ（二四）此學ヲ分チテ二

（二四）單獨經濟政策學ハ前述ノ經濟政策學ト異ナリ國家カ一箇ノ經濟團體トシテ存在セル上ニ於テ如何ニセハ其經濟ノ繁榮ヲ爲シ得ルヤヲ攻究シ又國家内ニ存在スル市町村或ハ一箇若クハ一會社組合等種種ノ經濟團體カ各自其繁榮ヲ謀ル所以ヲ攻究スルモノトス彼ノ經濟政策學ノ攻究モ亦其結果間接ニ國家其他ノ經濟團體ノ繁榮ヲ來スニ至リ得ルモ彼ハ直接ニ國家其他ノ經濟團體其モノノ繁榮ヲ攻究スルモノニ非ス彼ノ目的ハ農工商等ノ一般

經濟業務ノ進歩發達ヲ謀ルニ在リ而シテ此單獨經濟政策學ハ直接ニ國家其他ノ經濟團體其モノノ繁榮ヲ攻究スルモノナリ例ヘハ其中ノ一タル財政學ハ國家自身ノ財政ヲ如何ニスヘキヤ等ノ問題ヲ講スルモノニシテ經濟政策學ト單獨經濟政策學トノ兩者ハ相待チテ各其用ヲ爲スモノナリ

（二五）財政學ハ政治團體カ收入ヲ得支出ヲ爲スノ方法即チ財政ヲ攻究スルモノニシテ國家ノ財政國家内ニ存在スル地方團體ノ財政又ハ聯合國即チ數多ノ

ト爲ス曰ク

甲　財政學

乙　私經濟學

是ナリ財政學トハ經濟團體中ノ比較的ニ廣大ナル國家其モノ又ハ各地方ノ政治團體又ハ國家以上ノ聯合團體カ如何ニセハ最モ善ク其收入ヲ得支出ヲ爲シ以テ自家ノ生存發達ヲ謀ルヲ得ルヤヲ攻究スルモノナリ故ニ其目的トスル所ハ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ收入ヲ得以テ政費ノ支辨ニ最モ其宜キヲ得ルノ方法ヲ說クニ在リ（二五）

國家ヲ聯合シテ一ノ國家的團體ト爲シタルモノノ財政ヲ攻究スルモノナリ」

私經濟學トハ現今ノ社會制度ノ下ニ栖息スル各箇人又ハ箇人ノ團體カ如何ニシテ最モ善ク時ノ事情ニ應シテ其經濟ヲ運轉スルヲ得ルヤヲ攻究スルモノナリ人或ハ此學ヲ以テ經濟政策學並ニ財政學トハ全ク異ナリ主トシテ所謂箇人經濟學ニ依ルモノナリト爲セトモ是レ當ラサルナリ原人社會ノ箇人經濟ヲ論スルニ方リテハ其基礎トスル所今日ノ經濟政策並ニ財政ヲ論スルトハ全ク異ナレリト雖モ今日ノ社會ニ於ケル箇人ノ私經濟ヲ應用的ニ論スルハ然ラス今日ノ應用的私經濟論ハ有機的社會ヲ組織スル各箇人ノ經濟ニ關スルモノニシテ其主トシテ據ル所ハ結局純正經濟學ノ一般理論ナリ決シテ特別ノ箇人經濟學ト稱スヘキモノノ理論ニ非サルナリ況ヤ純粹ノ學問トシテ特別ノ箇人經濟學ナルモノ果シテ存在スルヤ否ヤハ一ノ疑問ナルニ於テヲヤ今日ノ社會ニ於ケル米商、株式仲買人又ハ銀行家等カ其營業取引ヲ爲スニ方リ據ル所ハ價格、金利、地代等ノ說即チ純正經濟學ノ原理ニシテ毫モ經濟政策ノ當局者又ハ財政機關カ其公務ヲ處弁スルニ際シテ根據トスル所ト異ナルコトナシ純正經濟學ハ實ニ經濟政策學財政學兩者ノ重大ナル基礎タルト同時ニ應用的ノ私經濟學ニ取リテモ亦重ナル基礎タリ(一六)

(一六)　私經濟學トハ一箇人ノ經濟上ニ於ケル手段方法ヲ攻究スルモノニシテ純正經濟學トハ全ク異ナルモノノ如シト雖モ今日ノ社會ニ於テ一箇人ノ經濟上ニ執ルヘキ手段方法ハ到底主トシテ純正經濟學ノ原理ニ依ラサルヘカラス蓋シ今日ノ箇人ハ社會ノ一員トシテ生存スルモノナレハ其經濟ニ關スル手段方法ハ社會經濟ノ現象ニ因リテ斟酌セサルヘカラス隨テ箇人ノ私經濟ニ關スル理論ハ純正經濟學ノ原理ニ依ルヘキコト猶ホ財政學カ純正經濟學ノ原理ニ據ルカ如シ

和佛法律學校發行

經濟學總論終

法學博士　金井延講述

經濟學總論

三十三年度講義錄

和佛法律學校發行

經濟學總論目次

緒　言……一
第一編　經濟學上ノ根本概念……一〇
第一章　欲　望……一〇
第二章　財　貨……三四
第三章　價　直……七三
第四章　經　濟……九七
第五章　經濟的活動ノ前提……九九
第一節　社　會……九九
第二節　國　家……一〇一
第三節　財產制度……一〇二
第二編　經濟學ノ定義……一二九
第三編　經濟學ノ分科……一七一

第三節　強制學ノ必要……一六一
第二節　強制學ノ定義……一二六
第三節　相互關係……一〇二
第二節　國家……一〇一
第一節　社會……九九
第五章　強制的組織ノ簡略……九九
第四章　強制……七七
第三章　勢力……三三
第二章　租賃……三四
第一章　物質……一〇
第一節　強制學上ノ基本觀念……一〇
緒言……一

經濟學總論目次終

佛國ハ一千八百三年五月二十八日ノ法律ニ依リ金銀兩本位制ヲ採用セリ此法律ニ依レハ銀一キログラムアニ百フラン(ヲ)ト鑄シタルヲ以テ五フランノ銀貨ハ二十五グラムノ銀塊ナリ又一フランノ銀貨ハ五グラムノ銀塊ヨリ成ル又當時ノ市價ニ據ミ金一キログラムハ三千一百フランニ當ルモノトシ五フランノ金貨ハ一・六一三グラムヲ含ムモノト定メタリ(即チ金銀ノ法定比價一ト十五半ト爲セタリ其後金銀ノ比價ニ多少ノ變動アリタレトモ佛國ハ能ク其幣制ヲ維持セタリ然ルニ一千八百四十七年ニカリホルニヤノ金鑛一千八百五十二年ニ濠洲ノ金鑛發見アリ是マテ一年ノ金產額僅ニ二億フランニテリシモノ今ハ進ミテ五六億フランニ增加セリ又一方ニ於テハ印度ト通商ノ發達ニ由リテ銀塊ノ印度ニ吸收セラレタル額甚タ多シ其結果トシテ二金屬ノ比價ニ變動ヲ來シ貴金屬ノ市場ニ於テハ金ノ一グラムハ銀十五グラム半ニ當ラスシテ銀十五グラム乃至十四グラムニ當ル當時英人ハ銀ヲ印度ハ送ラシカ爲メニ何レニカ銀ヲ求ムルノ必要アリ然ルニ倫敦ニ於テハ金一キログラムニ對シテ銀十四キログラムヨリ餘分ニ求ムルヲ能ハス然ルニ金一キログラムヲ巴里ノ造幣局ニ送リテ

鑄造ヲ依頼スルトキハ三千一百「フラン」ノ金貨ヲ得ヘシ此ヲ同數ノ銀貨ト交換スルトキハ3100×5「グラム」即チ金一「キログラム」ニ對シテ銀十五「キログラム」平ク得タ大ニ利益ヲ得タリ又佛人ハ銀貨二百八十「フラン」即チ銀塊十四「キログラム」ヲ倫敦ニ送リ其時ノ相場ニ從ヒテ金一「キログラム」ト交換シテ之ヲ本國ニ送リ巴里ノ造幣局ニ依頼シテ金貨ト爲ストキハ金貨三千一百「フラン」ヲ得ヘシ是ヲ以テ差引三百「フラン」ノ利益ト爲ル此中ヨリ造幣費運送費其他ノ雜費ヲ差引クモ尚ホ非常ニ有利ナル取引ナリ此ノ如クニシテ銀貨ハ次第ニ佛國ヲ去リ之ニ代リテ現ハレタルモノハ金貨ナリ是レ即チ法定割合ヨリ輕キ金貨幣(惡貨)カ重キ銀貨幣(良貨)ヲ驅逐スト謂フ「グレシヤム」法則ノ働ナリ此ノ如クシテ當時佛國ヲ去リタル銀貨ハ二十億「フラン」ニ上リタリト云フ當時英佛ノ地金商ハ競フテ佛國ノ銀貨ヲ集メテ英國ニ送ルニ當リテハ唯其速ナランコトヲ欲スルノミニシテ其貨幣ノ種類ノ五「フラン」銀貨タルト一「フラン」銀貨タルト五十「サンチーム」貨タルトハ固ヨリ問フ所ニアラサルナリ而シテ此等ヲ集メテ英國ニ送リ代リテ佛國ニ來ル所ノ金塊ニ由テ鑄造セラレタル貨幣ハ皆五「フランヲ」以上ノ金貨幣

ナルヲ以テ佛國ハ忽チニシテ小貨幣ノ缺乏ヲ來シタリ是ニ於テ一千八百六十五年ノ法律ニ依リ五「フラン」銀貨ヲ除キ其他ノ銀貨ノ純分ハ從來千分中九百ナリシモノヲ八百三十五ト爲シ(即チ當時金銀ノ實際比價ニ比シテ割合輕キモノト爲シタリ)毎制限ノ法貨タルコトヲ廢シテ補助貨ト爲シ一箇人ノ間ニ於テ一口ノ支拂高五十「フラン」マテニ限リテ法貨トシテ授受セシムルコトト爲シタリ是ニ於テ此等ノ補助銀貨ノ法定價格ハ實際ノ市場價格ニ比シテ不廉ナルモノト爲リタルヲ以テ之ヲ買收シテ輸出スルモ何等ノ利益ナキヲ以テ之ヲ輸出スル者ナク茲ニ補助貨ノ流出ハ停止セラレタリ然レトモ五「フラン」銀貨ノ流出ハ尚ホ引續キ行ハレタリ其後二十年ヲ經テ一千八百七十三年ニ至リテ再ヒ金銀二貨ノ比價ニ反對ノ變動起リ佛國ノ貨幣制度ハ再ヒ攪亂セラレタリ亞米利加ニ發見セラレタル銀鑛ヨリ銀ノ巨額ノ產出アリ之ト同時ニ獨逸國ハ金貨本位ヲ採用シ從來ノ通用貨幣タリシ「ターレル」銀貨ヲ賣却シテ金塊ヲ買入レタリ是ニ於テ金銀二金屬ノ比價再ヒ變動シ金ノ一「キログラム」ハ銀ノ十四「キログラム」若クハ十五「キログラム」半ト交換セラレルノミナラス平六千七十七八遂ニハ二十「キ

〔ログラム〕ト交換セラルルニ等シキ換言スレハ銀ハ金ニ比シテ大ニ下落シ〔五百フラン〕銀貨ハ其當時ノ市場價格ニ依レハ金貨三百八十七〔フラン〕五十〔サンチーム〕ニ當ルニ過キス是ニ於テ金貨ハ法定割合ニ比シテ過重ト爲リ銀貨ハ輕キニ過クルモノトナリ茲ニ再ヒ金貨ノ流失ヲ始メタリ佛國ノ銀行家ハ金貨幣三千一百〔フラン〕卽チ重量一〔キログラム〕ノ金ヲ集メテ倫敦ニ送リ是ニ於テ二十〔キログラム〕ノ銀塊ト交換シテ佛國ニ輸入シテ銀貨ニ鑄造スルトキハ一〔フラン〕ハ銀五〔グラム〕ナルヲ以テ四千〔フラン〕ノ銀貨ヲ得ヘシ卽チ差引九百〔フラン〕ノ利益アリ此中ヨリ多少ノ運送費造幣費其他ノ諸雜費ヲ差引クモ尚ホ非常ナル利益ヲ得タリ此働ノ結果トシテ佛國ニ於テハ金貨次第ニ減少シ銀貨次第ニ増加シタリ此働ヲ無制限ニ行ハシムルトキハ其結果トシテ一定ノ期間經過ノ後ハ金貨ハ全ク流出シ了リテ銀貨ノミ流通スルコトト爲ルヘシ故ニ佛國ハ其當時金貨流出ヲ避ケンカ爲メニ一千八百六十五年ニ採用シタル政策ノ如ク金貨ノ品位ヲ低クシ又ハ銀貨ノ重量ヲ増ス(卽チ法定比價ヲ改正シ)ニ由リテ其目的ヲ達スルコトヲ得タルナランモ數度貨幣ノ改鑄ヲ行フコトハ全ク貨幣制度ノ不信用ヲ來シ之ヲ爲メニ生スル政府ノ損失甚大ナルヲ以テ一層簡單ナル方法ヲ採レリ卽チ一千八百七十五年十一月ノ法律ニ依リ五〔フラン〕銀貨ノ鑄造ヲ停止セリ是ニ於テ佛國ヨリ金塊ヲ輸出シテ銀塊ヲ外國ヨリ輸入スルモ佛國ハ之ヲ貨幣ニ鑄造セサルヲ以テ何等ノ利益ヲ收ムルコト能ハス隨テ金貨ノ輸出ヲ企ツル者ナク金貨ノ流出モ亦停止セラレタリト雖モ銀貨ハ最早鑄造セラレサルヲ以テ引續キ新ニ鑄造セラルルモノ金貨ノミニ限ルヲ以テ名ハ金銀兩本位制ナリト雖モ實際ハ殆ト金單本位制ニ同シト謂ハサルヘカラス此複本位制ノ變體ヲ名ケテ跛本位制(limping standard)ト云フ

千八百七十三年獨逸カ金單本位制ヲ採用シタルカ故ニ銀ノ價格ハ大ニ下落シタルニ千八百七十五年ニハ佛國ヲ始メ其他羅甸同盟國以太利、白耳義、瑞西、希臘カ銀貨ノ鑄造ヲ停止シタルニ因リ銀貨ハ此ニ再ヒ凡八千萬人ノ市場ヲ失ヒ大ニ其需要ヲ減少シタルヲ以テ銀貨ハ下落ヲ一層急激ナラシメ一千八百七十二年ニハ金一銀十五.五五ナリシモ一千八百七十六年ニハ十六.八二ト爲リ一千八百八十年ニハ金一銀一八.〇五一、千八百八十六年ニハ金一銀二〇.七八ト爲リタ

[illegible]八十年ニハ金一磅一八〇五一千八百八十六年ニハ金一磅二〇二八八[illegible]高ニ昇ケタル佛國ノ實例ニ徴スルモ一國カ他國ニ率先マテ兩本位制ヲ採ルトキハ實際市場ノ比價ト法定比價トノ間ニ等差ヲ生スルトキハ下落シタル貨幣ノミ其國ニ流入シ騰貴シタル貨幣ハ外國ニ流出シ結局其國ノ損失ニ歸スルモノナリ[illegible]然レトモ社會一般ヨリ觀ルトキハ金ノ價騰貴セハ兩本位國ハ金ヲ輸出シテ銀ヲ購買ス此銀ニ對スル需要ノ增加ハ銀ノ價格ヲ騰貴セシメ金ノ供給ノ增加ハ金ノ價格ヲ下落セシムルモノナリ之ヲ兩本位ノ補正作用ト謂フ兩本位制ニ於テハ此補正作用ノ働アルヲ以テ單ニ一種ノ金屬ヲ貨幣トスル場合ニ比スレハ貨幣價格ノ變動ヲ少カラシム而シテ其補正作用ハ兩本位制ヲ行ハルル區域廣クシテ二金屬既存ノ分量孰レモ多量ナルトキハ有效ニ行ハルルモノナリト謂フ理論ハ萬國復本位論者即チ一二ノ國カ他國ニ率先シテ兩本位制ヲ採ラントスルモ固ヨリ行ハルヘキコトニアラサレトモ世界ノ主要ナル通商國聯合シテ兩本位制ヲ採ルトキハ能ク之ヲ維持スルコトヲ得ヘシト主張スル者ノ金料玉條ト

爲スモノナリ[illegible]此等論者曾曰ク一千八百七十三年獨逸金本位ヲ採用セス其後佛國モ其他ノ諸國カ銀貨ノ鑄造ヲ廢止セスシテ世界ノ大通商ハ總テ金一銀十五半ノ比例ヲ以テ萬國兩本位制ヲ採用セハ能ク其法定ノ割合ヲ維持スルヲ得ヘカリシニ之ヲ爲ササリシハ頗ル遺憾ナリト[illegible]此論者カ萬國共同シテ複本位制ヲ採用スヘシト主張スル論旨ハ左ノ如シ

一、金ノ現在額及ヒ年年ノ產額ハ之ヲ以テ貨幣唯一ノ材料ト爲スニハ甚タ不十分ナリ[illegible]一千八百七十三年以來諸國競フテ金貨本位制ヲ採用シタルヲ以テ劇シク金ノ需要ヲ增加シ其結果トシテ金ノ價格著ヤク騰貴シ諸物價甚シク下落シテ貸借ノ關係ヲ紊亂シ產業萎微シテ奮ハス一般ニ不景氣ノ悲況ニ沈倫セリ是レ即チ金ノミニタハ貨幣ノ材料タルニ不十分ナルコトヲ證スルモノナリ[illegible]金貨本位論者曰ク金貨國ニ於テ物價ノ下落シタルハ學理ノ應用器械ノ發明ニ由リテ生產費ヲ減シタルニ基クモノニシテ金ノ價格ノ騰貴ニ起因スルモ

ノミアラス然レトモ學理ヲ應用器械ノ發明其他產業ノ進步ハ最近二十餘年以來始メテ起リタル事柄ニアラス又此時代ニ限リ特ニ著シク進步ノ度ヲ加ヘタルヲ見ス又此ト同時ニ同樣ノ文明ノ利器ヲ應用シタル銀貨國ニ於テハ物價ニ著シキ變動ナキニ拘ラス此時代ニ於ケル金貨國ニ限リ物價ノ劇變ニ遭遇シタルハ全ク金貨本位制採用ノ結果ナリト謂ハサルヘカラス

主要ナル商業國連合シテ複本位制ヲ取ルトキハ金銀ノ法定比價ヲ維持スルコトヲ得ヘシ

現近世界ノ主ナル商業國ニ存在スル貨幣ハ金貨約五十億圓銀貨ハ補助貨ヲ除キ約五十億圓總計大凡百億圓アリ然ルニ金ノ一年ノ產額ハ平均約二億圓銀ノ產額ハ約五億圓アリトシ金銀トモ其半額ハ年年工藝其他ノ用ニ充テラレ其半額ハ貨幣鑄造ニ充テラルルモノト假定セヨ而シテ金銀貨ノ法定比價ハ一ト三〇トノ割合ナリシモノト假定セヨ然ルニ金ノ供給俄ニ減少シテ一年ノ產額一億圓ト爲リ金塊ノ相場著シク騰貴シテ金一銀三五ト爲リタルモノト假定スルトキハ金銀ノ法定比價ハ之ヲ維持スヘキヤ否ヤ此時ニ當リテ

金ハ貨幣ニ鑄造スルヨリモ金塊トシテ賣却スル方有利ナルヲ以テ何人モ金塊ヲ提供シテ金貨ヲ鑄造ヲ依賴スル者ナカルヘシ又銀ハ地金トシテ販賣スルヨリハ貨幣トシテ使用スル方有利ナルヲ以テ各人競フテ銀貨ノ鑄造ヲ依賴スヘク其極一年ノ產額五億圓ハ悉ク銀貨ニ鑄造セラレタルモノト假定スヘシ然ルニ此等ノ諸國ニ於テ年年貨幣トシテ增鑄ヲ要スル額ハ金銀ノ每一年ノ產額七億圓ノ半額三億五千萬圓ニ過キス然ルニ六億圓丈增鑄セラルルトキハ貨幣ノ供給多キニ過キ貨幣ノ價格下落スルヲ以テ貨幣トシテ用ヒラルルヨリハ地金トシテ用フルヲ以テ利益アリトスルニ至ルヘシ而シテ此場合ニ於テハ金貨ヲ鑄潰シ金塊トシテ販賣スルコトハ頗ル有利ナルヲ以テ六億圓ト三億五千萬圓トノ差二億五千萬圓丈ノ金貨ハ貨幣タル用ヲ辭シテ金塊ト爲リ市場ニ現ルヘシ然ルニ金塊ノ工藝品等ニ要スル額ハ一年僅ニ一億圓ニ過キサルニ其供給ハ新生產額一億圓ト舊貨幣ノ鑄潰サレタルモノ二億圓合計三億圓ト爲ルヲ以テ供給過ニ需要ニ超過シ金塊ノ相場忽チ下落ノ傾ヲ生シ遂ニ金一銀三〇ノ法定比價ニ復スルモノナリ

此事タル單ニ理論上右ノ如ク決定スルコトヲ得ルノミナラス一千八百三年以來七十年間羅甸同盟カ金一銀一五.五ノ割合ヲ以テ複本位制ヲ採用シ善ク之ヲ維持スルコトヲ得タルヲ以テ例證ト爲スコトヲ得ヘシ

三、金銀兩金屬ヲ併用スルトキハ一金屬ヲ使用スルトキヨリ貨幣ノ價格ニ變動少シ

一金屬ノミヲ使用スルトキハ其金屬ノ需要供給ニ變動アルトキハ貨幣ノ價格ハ忽チニ變動スヘシ然ルニ兩金屬ヲ併用スルトキハ一金屬ノ供給減少スルモ單ニ其金屬ノミヲ使用スルトキニ比スレハ貨幣ノ價格ニ影響ヲ及ホスコト少シ況ヤ一方ノ金屬ノ供給カ減少スルト同時ニ偶他方ノ金屬ノ供給增加スルカ如キコトハ決シテ稀有ノコトニアラサレハナリ是ヲ以テ羅甸同盟國複本位制ヲ實行シタルトキニ於テ歐洲諸國ノ物價ハ最近二十餘年間ニ於ケルカ如ク甚シキ變動ヲ蒙リタルコトナシ

四、萬國本位制ヲ採用スルトキハ世界ノ貿易ヲ圓滑ナラシム

金貨國、銀貨國トノ間ニ存在スル爲替相場ノ變動ヨリ生スル障礙ヲ去リテ通商貿易ヲ圓滑ナラシメ又諸國ノ間ニ資本ノ疏通ヲ便ナラシム

此爲換相場變動ヨリ生スル通商上ノ妨害ハ萬國カ金又ハ銀單位ヲ採用スルコトニ依リテモ亦之ヲ除クコトヲ得ヘシト雖モ何レカ一方ノ金屬ノミニテハ貨幣ノ材料トシテ不十分ナルカ故ニ强テ此ノ如キ方法ヲ取ルトキハ物價ニ劇變ヲ來シ其幣ニ堪ヘサルヘキヲ以テ此目的ヲ達センカ爲メニハ萬國複本位制ヲ取ルヲ以テ最モ機宜ニ適シタルモノナリト云フナリ

又單本位制ヲ主張スル者ノ論旨ハ左ノ如シ

一、兩金屬ノ比價ハ常ニ變動スルモノナルヲ以テ價格ノ標準ト爲ス能ハス金銀ノ價格ハ其供給工藝等ニ用フル需要及ヒ其生產等ニ關スル變動ニ由リ絕エス變化スルモノナルカ故ニ到底一定ノ比價ヲ維持シ得ヘキモノニアラス隨テ此二種ノ金屬貨幣ヲ以テ價格ノ標準ト爲スコトハ到底ナシ得ラレサルナリ

二、金ハ文明國ノ貨幣タルニ適スルモノナリ

金單本位制ヲ主張スル人ハ曰ク金ノ價格ハ銀ヨリモ固定ナルモノナリ又經

濟社會ノ進歩スルニ隨テ大取引ハ益繁盛ト爲ルモノ多ク金ハ其容量小ニシテ價格大ナルカ故ニ此ノ如キ社會ノ貨幣タルニ適スルモノナリ朝鮮ノ如キ夥多ノ小支拂アル國ニ於テハ銀貨ヲ以テ便ナリト爲セトモ歐米諸國ノ如ク大商業國ニ於テハ金貨ヲ以テ本位貨ト爲スヲ便トス

三、複本位制ヲ採用ストキハ貸借關係ヲ攪亂ス

金銀複本位制ハ名ハ兩本位ナレトモ其實廉價ナル貨幣ノ変替本位制ナルカ故ニ債權者ニ損失ヲ被ラシメ債務者ヲシテ不當ノ利益ヲ得シムルモノニシテ信用經濟ノ發達ヲ害スルモノナリ

第四章　信　用

第一節　信用ノ定義

信用トハ一方ノ履行カ將來相手方ノ履行ニ依リテ報イラルヘシトノ信認ニ基キテ行ハルル所ノ貨財ノ授受ヲ謂フ

第二節　信用ノ種類

信用ハ種種ノ標準ニ依リテ之ヲ分類スルコトヲ得ヘシ

(一)債務者ノ人格ヲ基礎ト爲ストキハ公共的信用、私人的信用ノ別アリ

債務者カ國家其他ノ公共團體ナルトキハ公共的信用ト謂ヒ又債務者カ一私人ナルトキハ私人的信用ト謂フ

(二)支拂ノ約束ヲ保證スル擔保ヲ基礎トスルトキハ對物信用、對人信用ノ別アリ

債務者又ハ第三者カ自己ノ動產又ハ不動產ノ上ニ行ハルル物權動產質、不動產抵當ヲ債權者ニ與フルコトニ由リテ債務者ノ支拂ノ約束ヲ擔保スルトキハ之ヲ對物信用ト謂フ此種類ノ擔保ナキトキハ對人信用ト謂フ

(三)負債者カ受取リタル貨財ノ使用ノ方法ヲ基礎トスルトキハ生產的信用、消費的信用ノ別アリ

負債者借財ヲ不生產的ニ使用シタルトキハ消費的信用ト謂フ之ヲ返濟スルニ當リテハ他ノ財源ニ依ルコトヲ要スルモノナリ負債者カ借財ヲ生產的ニ

使用シタルトキハ之ヲ生産的信用ト謂フ而シテ商業ニ用ヒタルトキハ商業信用ト謂ヒ工業ニ用ヒタルトキハ工業信用、農業ニ用ヒタルトキハ農業信用ト謂フ

第三節　信用ノ成立要件

信用ハ一定ノ個人的及ヒ社會的條件ノ具備ニ由リテ成立スルモノナリ

(甲)個人的條件トハ債務ヲ履行スル負債者ノ能力ト意思トヲ謂フ

(一)債務履行ノ能力ハ

一、勞働ニ堪能ナラシムル精神及ヒ身體ノ狀態

二、所有財産ノ量及ヒ其處分ノ難易

ニ由リテ決定セラル又債務者ノ意思ハ債務者ノ道德上ノ性質正直、廉耻節儉等ニ由リテ定マルモノナリ

(乙)社會的條件ハ信用ノ成立ニ關シテ個人的條件ノ不足ヲ補フモノニシテ德義ニ關スルモノト法制ヨリ來ルモノトノ二アリ

(1)債務不履行ニ對スル道德上ノ制裁

(2)債務者カ任意ニ債務ヲ履行セサルトキハ之ヲ强制スルノ法律制度ノ具備セルコト

第四節　信用ノ利害

第一款　信用ノ利益

(一)信用ハ資本ノ效力ヲ增加ス　企業ヲ爲スノ能力智識嗜好又ハ必要ニ迫ラレサルモノノ手中ニ存スル資本ヲ之ニ反スルモノノ手ニ移シ又小資本ヲ結合シテ大企業ニ充用スルヲ得セシムルカ如キハ大ニ資本ノ效力ヲ增加スルモノナリ

(二)信用ハ貯蓄ヲ奬勵ス　直接ニ使用スルノ機會ナキ程ノ小額ノ資金ヲ預リテ相當ノ利子ヲ附スル貯蓄銀行預金銀行等ノ設備アルハ大ニ貯蓄ヲ奬勵スルモノナリ

(三)信用ハ金銀ノ使用ヲ節約ス　現近ノ文明國ニ於ケル交換ノ大部分ハ信用證

(三)券ノ媒介ニ依リテ行ハルルモノナリ特ニ遠隔ノ土地ノ間ニ行ハルル巨額ノ支拂ハ此方法ニ依ルノ外他ニ便法ナシト謂フコトヲ得ヘシ

(四)信用ハ無資財者ノ急ヲ救フ　信用ハ人ヲシテ其人ノ未來ノ收入ヲ引當トシテ現在ニ他人ノ貨財ヲ利用スルノ機會ヲ得セシムルモノナリ隨テ不慮ノ災害若クハ其他ノ理由ニ據リテ一時ニ巨額ノ支拂ヲ要スル場合ニ於テハ一時他人ノ貨財ヲ借リテ其急ニ應シ長キ期間ニ渉リ分割シテ返濟スルコトヲ得タ大ニ災害ヨリ生スル苦痛ヲ減少スルコトヲ得ヘシ

第二款　信用ノ害

(一)信用ハ浪費ヲ催進ス　信用ハ人ヲシテ他人ノ財產ヲ借入レ之ヲ處置スルノ權能ヲ得セシムルモノナルカ故ニ不謹愼ナル者ハ一時其掌中ニ歸シタル資產ノ分量多キニ任セ身分不相應ナル濫費ヲ爲スニ至ルコトアリ

(二)信用ハ不確實ナル企業ヲ誘起ス　借用資金ヲ以テスル者ハ自己所有ノ資金ヲ以テ業ヲ營ム者ニ比スルトキハ往往其成功ノ目途不確實ナル業務ヲ企フルモノナリ

(三)信用ハ投機ヲ奬勵ス　信用ハ僅少ノ資力アル者ヲシテ一時巨額ノ資金ヲ處置スル權能ヲ得セシムルモノナルヲ以テ屢投機者ノ亂用スル所ト爲ルモノナリ而シテ其投機失敗ニ了ルトキハ其結果トシテ產業社會ニ恐慌ヲ來スコトアリ

第五章　貨幣ノ代用物

貨幣ノ使用ハ交換ニ非常ナル便宜ヲ與フルモノナリ然レトモ交換ノ行ハルル度每ニ金錢ノ授受ヲ要スルハ貨物ノ取引ヲ容易ナラシムル途ニ於テ未タ盡シタルモノト謂フヘカラス而シテ交換ノ媒介トシテ獨リ貨幣ノミヲ使用スルトキハ極メテ巨額ナル金銀ノ供給ヲ必要トス然ルニ金銀ハ他ノ貨物ノ分量又ハ貨物ノ取引ノ增加ニ伴ヒテ相並ヒテ增加セサルカ故ニ世人ハ他物ヲ以テ貨幣ニ代リテ交換ノ媒介ヲ爲サシムルニ至レリ貨幣ノ重ナル代用物ハ信用證券及ヒ紙幣ナリ信用證券ノ價ヲ有スルハ之ヲ流

通セシムル人カ證券ニ對シテ貨幣ヲ支拂フコトヲ約シ世人カ其約束ヲ信用スルカ故ニシテ金屬貨幣ト異ナリ其材料中ニ眞價ヲ有スルモノニハアラサルナリ)

信用證券ノ分類　種種ノ標準ニ依リ之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ

一、發行者ノ人格ニ依リテ區別ストキハル

(a)國家、府縣、市町村等ノ公共團體ノ發行シタル債券ヲ公ノ信用證券ト謂ヒ(例ヘハ國債地方債證券ノ如キ)

(b)一私人又ハ私ノ團體ノ發行シタルモノヲ私ノ信用證券ト謂フ(例ヘハ借金證書、手形等ノ如シ)

二、支拂ヲ爲スヘキ人ニ依リテ區別スルトキハ

(a)信用證券ノ發行者カ直接ニ債務ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約束スルモノ(例ヘハ借用證書、約束手形等ノ如キモノ)ト

(b)第三者ニ對シテ發行者ニ代リテ支拂ヲ爲スヘキコトヲ依頼スルモノ(例ヘハ爲替手形、小切手等)トアリ

三、債務ノ履行ノ時期ニ依リテ區別スルトキ

(a)一覽拂證券　發行者又ハ發行者ヨリ支拂ヲ依頼セラレタル人ハ信用證券ヲ呈示セラレタルトキハ直チニ支拂ヲ爲スヘキモノヲ謂フ(例ヘハ一覽拂ノ手形、小切手等ノ如シ)

(b)定期拂證券　多數ノ借用證書及ヒ手形等之ニ屬ス證券面ニ記載セラレタル一定ノ期日ニ達セサレハ債務者ハ支拂ヲ爲スヲ要セサルモノナリ

(c)不定期拂證券　債權者若クハ債務者ノ一方若クハ雙方カ通知權ヲ有スル場合ト雙方共ニ之ヲ有セサル場合トアリ常事者カ通知權ヲ有スル場合ニ於テハ其通知ヲ爲サルトキ若クハ通知後一定ノ期日ニ達スレハ債務者ハ支拂ヲ爲スヘキモノナリ又雙方共ニ通知權ヲ有セサルモノハ例ヘハ永久公債ノ如ク雙方ノ同意アルニアラサレハ債務ヲ消滅セシムル機會ナキモノヲ謂フ

四、移轉ノ方法ニ關シテ信用證券ヲ區別スルトキハ

(a)記名式證券　證券ノ表面ニ記載シタル宛名ノ人ニノミ支拂フヘキモノヲ謂フ而シテ此證券ノ所有權ヲ移轉スルニハ債權讓渡ニ必要ナル條件ヲ具フ

ルコトヲ要ス又證券ノ種類ニ依リ其上ニ公ノ帳簿ニ登記スルコトヲ要スルモノアリ例ヘハ記名式公債證書記名式ノ株券等ノ如シ

(b)指圖式證券　證券ノ表面ニ記載シタル宛名ノ人又ハ其人ノ指定セシ人ニ支拂フヘキコトヲ記載セルモノヲ謂フ而シテ此種ノ證券ヲ讓渡スニハ其所有者ハ通常其證券ノ裏面ニ署名捺印シ又ハ署名捺印ニ加ヘテ表面ノ金額ノ支拂ヲ受クル權利ヲ讓渡ス旨ヲ明記シ之ヲ相手方ニ引渡スコトヲ要スルナリ例ヘハ指圖式ノ約束手形爲替手形等ノ如キモノヲ謂フ

(c)無記名式證券　證書ノ券面ニ支拂ヲ受クヘキ人ヲ指定セサル證券ヲ謂フ此證券ノ移轉ハ單ニ引渡ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘク少シモ他ノ方式ヲ要セサルモノナリ例ヘハ無記名公債證書銀行紙幣等ノ如キモノヲ謂フ

貨幣ノ代用物トシテ最モ廣ク使用セラルル信用證券ハ次ノ四種ナリ

(1)約束手形　トハ手形ノ發行人カ其手形ノ受取人又ハ指圖人又ハ其手形ノ持參人ニ一覽次第又ハ一定ノ期日ニ一定ノ金額ヲ自ラ支拂ハントノ約束ヲ記載シタル證券ヲ謂フ而シテ手形ノ受取人又ハ所持人ハ裏書讓渡又ハ引渡ニ依リ

校外生規則摘要

一 講義錄ハ各部毎月二回發行シ滿一ヶ年ヲ以テ卒業トス

一 講義錄ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ

第一部 毎月 五日 二十日

第二部 毎月 十日 廿五日

第三部 毎月 十五日 三十日

一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス

一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ慶價ヲ以テ購求スルコトヲ得

一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試驗ノ上校內生三年級ニ編入セラルルコトヲ得

一 校外生ハ講義錄中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス

一 三ヶ月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス

一 月謝ハ東京飯田町郵便支局佛和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十四年二月六日印刷
明治三十四年二月十日發行

編輯兼發行者 東京市四谷區四谷伊賀町三丁目六番地 小田幹治郎

印刷者 東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地 金子鐵五郎

印刷所 東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地 金子活版所

發行所 東京市麴町區富士見町六丁目十六番地 司法省指定 和佛法律學校

（電話番町百七十四番）